

内定者の声

令和元年度版
文部科学省



MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY

2020

あなたは50年後の日本を思い描くことができますか。

" 未来省 "

「人」と「知」を通じて
我が国の未来を戦略的に想像する。

あなたも文部科学省の一員になろう



皆さん、こんにちは。

この「内定者の声」は、文部科学省を目指される皆さんにとって、
文部科学省やその内定者のことをより深く知っていただくため、
令和元年度総合職内定者を中心に作成されたものです。

文部科学省の所掌する領域は「教育・科学技術・スポーツ・文化」と広範な上に、
それぞれの領域における業務も時代の進展に伴い
日進月歩で複雑化、多様化しています。

そして、かくいう私たち内定者も、各々が様々なバックグラウンドや思い、
理想を持ち、文部科学省の門を叩きました。

同じように少しでも文部科学省に興味をお持ちの皆さんにとって、
この「内定者の声」が就職活動や進路選択の糧となれば幸いです。

令和元年度 文部科学省総合職内定者一同

Contents

01.	内定者情報	...	p.04
-----	-------	-----	------

02.	内定者プロフィール	...	p.12
-----	-----------	-----	------

事務系
技術系

03.	内定者アンケート	...	p.52
-----	----------	-----	------

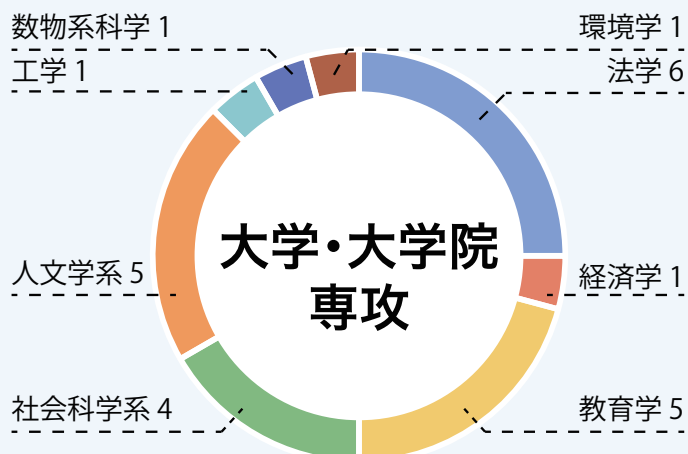
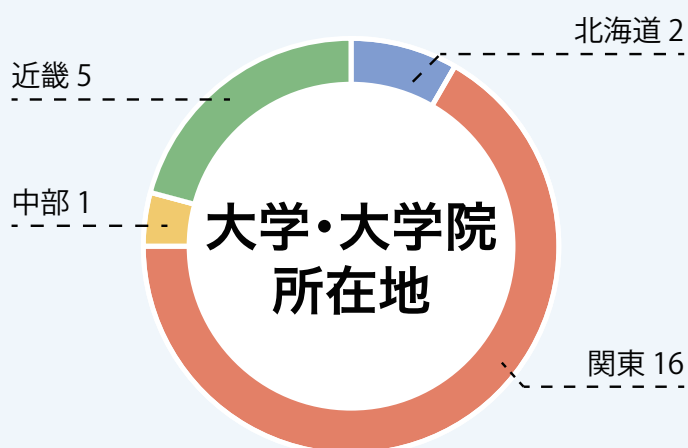
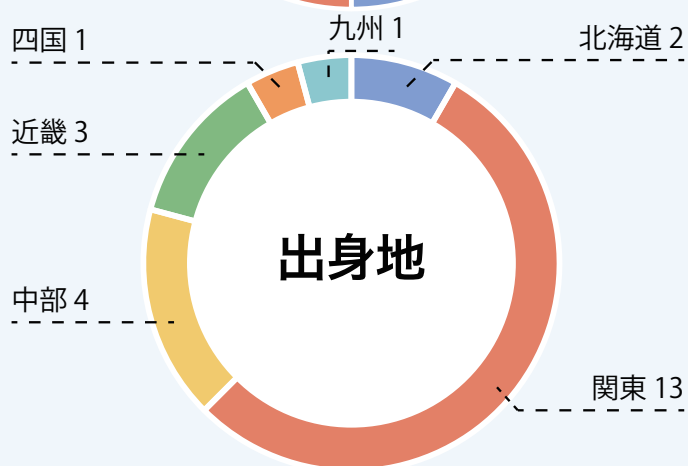
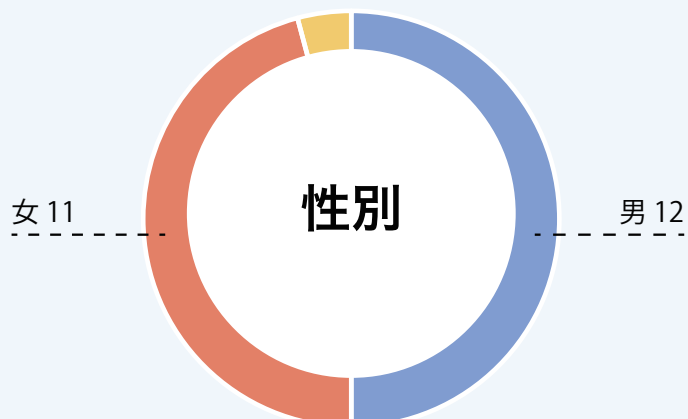
地方大学出身者
海外経験者
職務経験者
博士号取得者
過年度受験者

01.

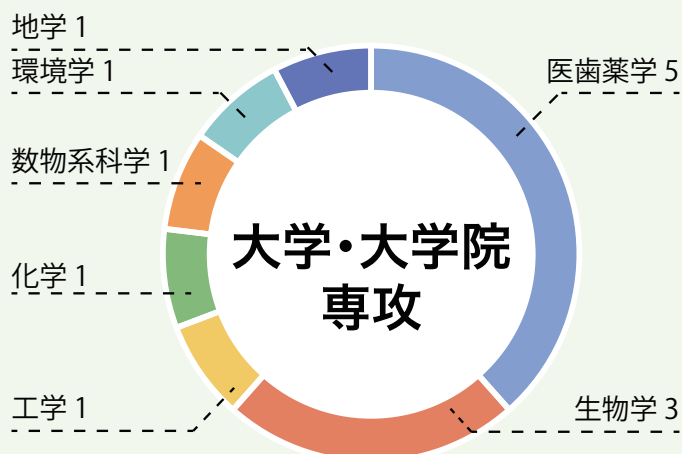
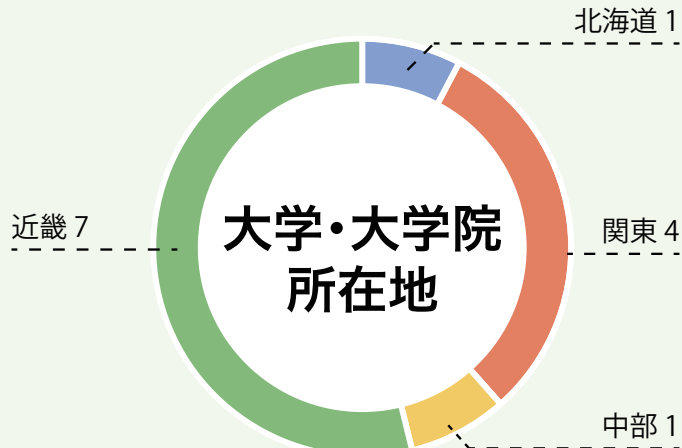
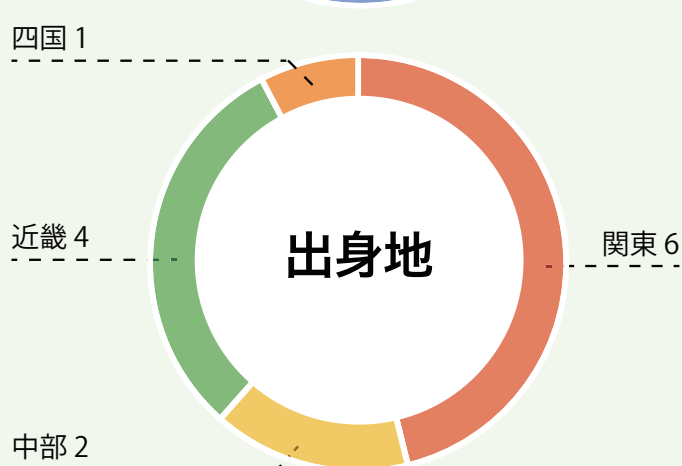
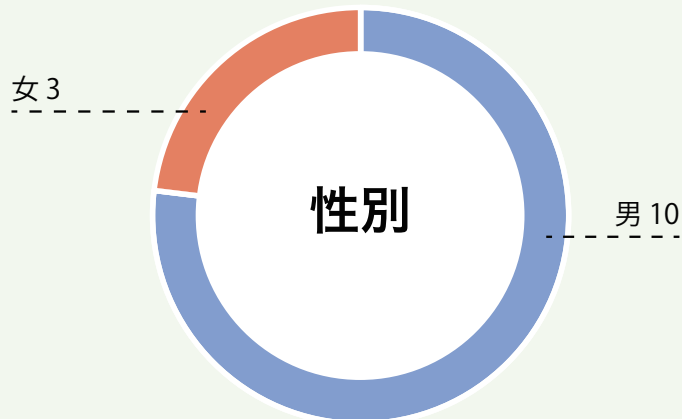
内定者情報

内定者についての
基本情報をご紹介します。

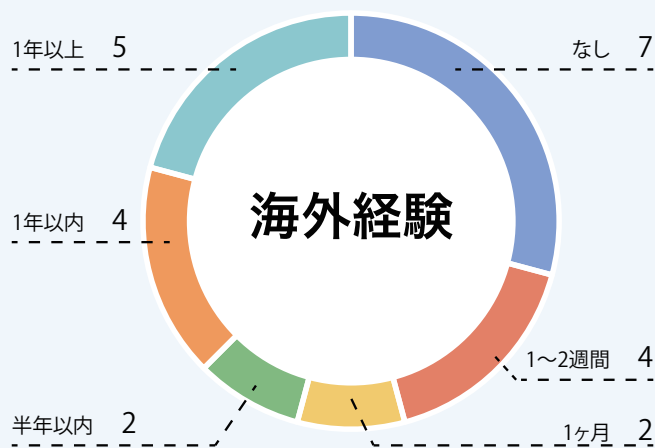
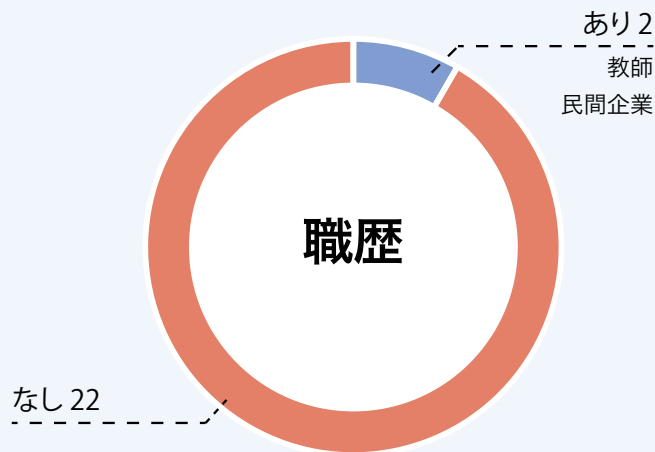
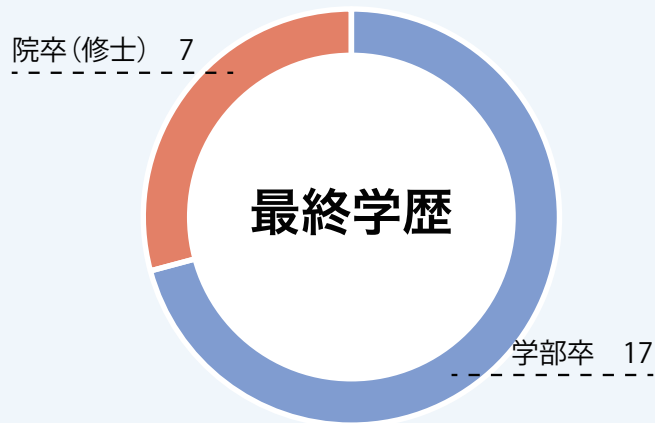
事務系 (24 人)



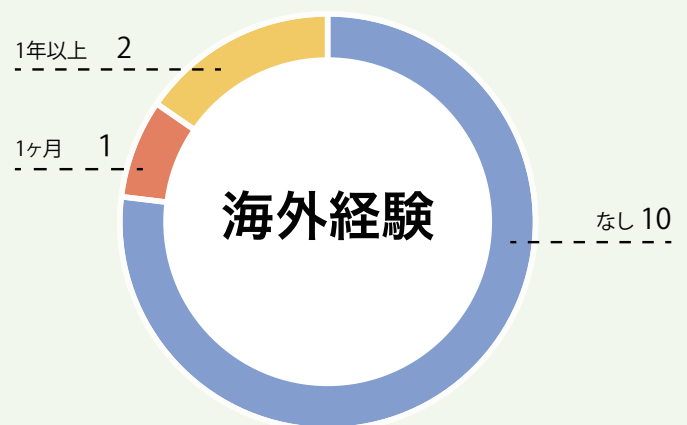
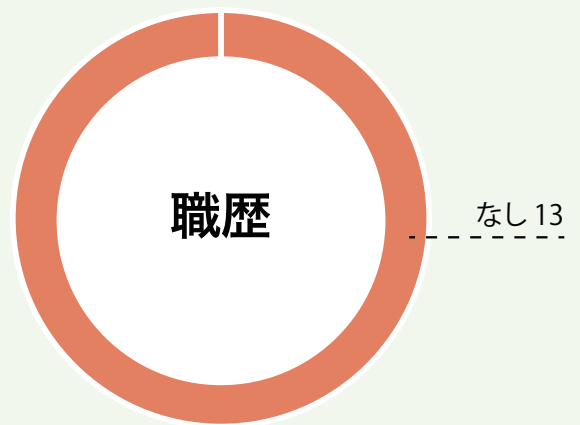
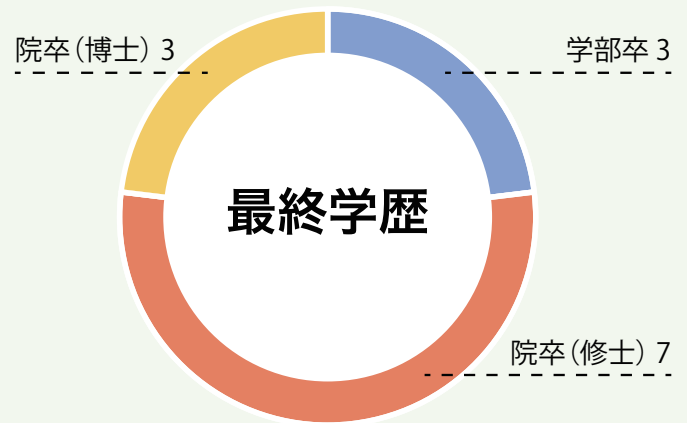
技術系 (13 人)



事務系（24 人）



技術系（13 人）

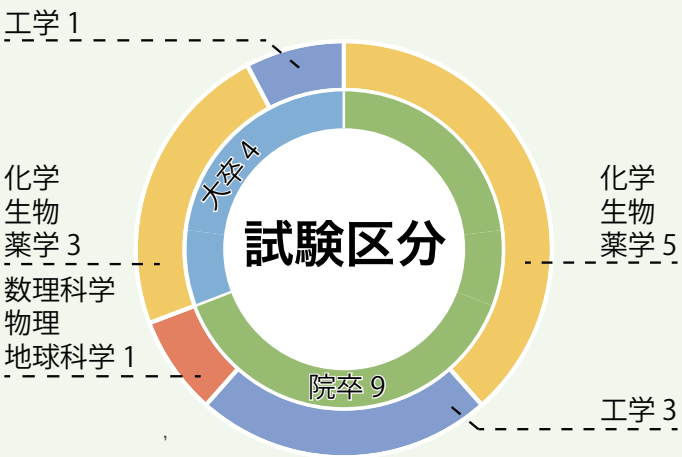
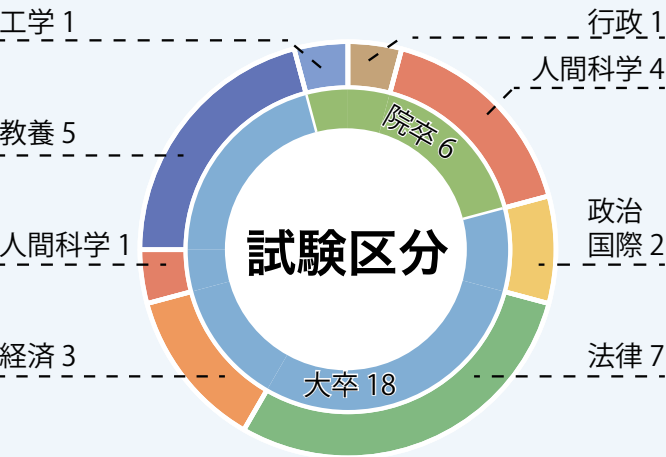
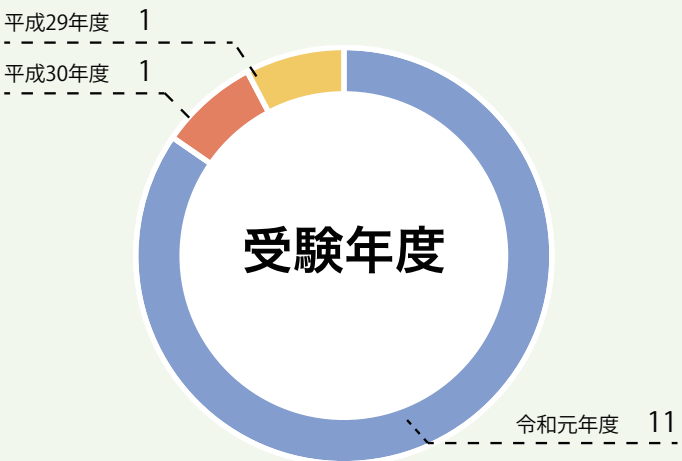
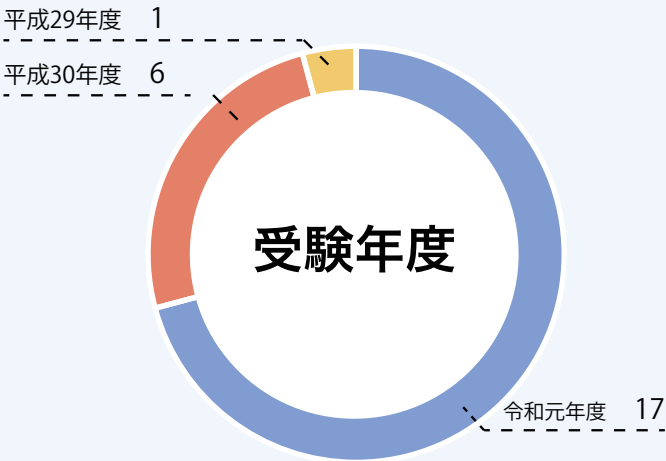


●海外経験の内容・目的

- | | | | | |
|---------|------------|------------|---------|--------|
| ・親の仕事 | ・正規留学・交換留学 | ・ワーキングホリデー | ・ボランティア | ・仕事 |
| ・海外記者研修 | ・旅行 | ・学生会議 | ・語学研修 | ・インターン |

事務系（24 人）

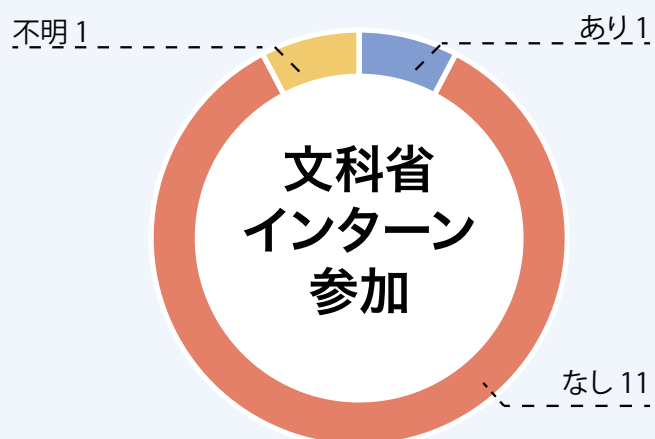
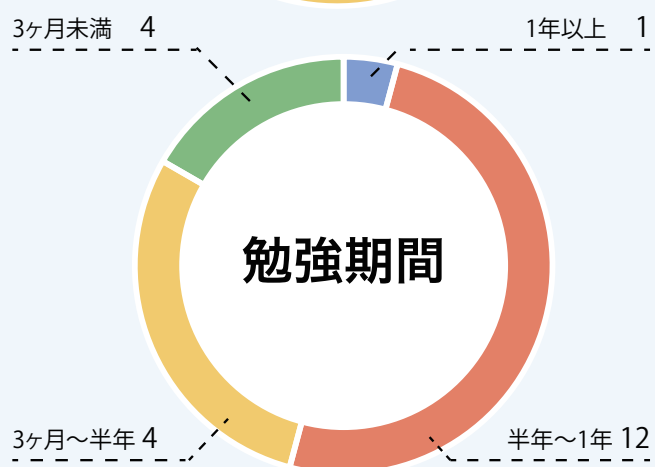
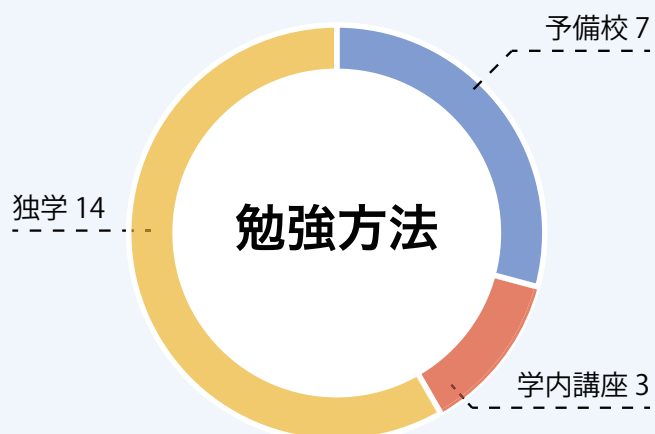
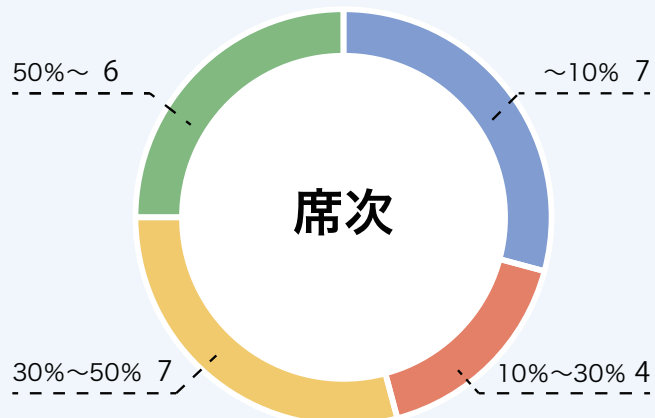
技術系（13 人）



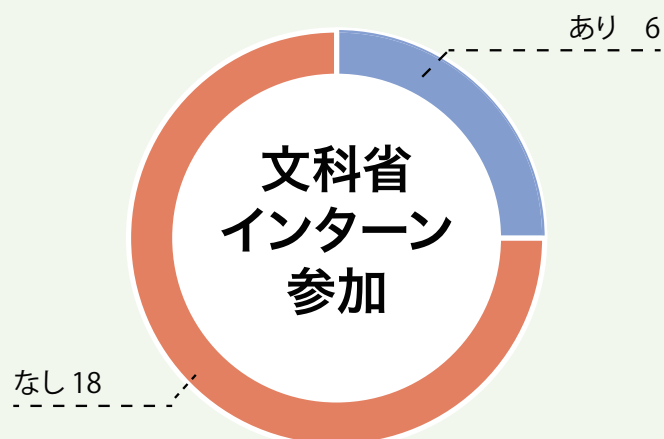
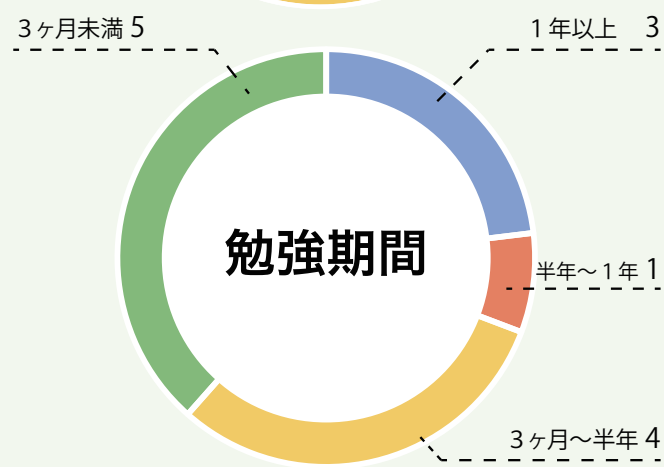
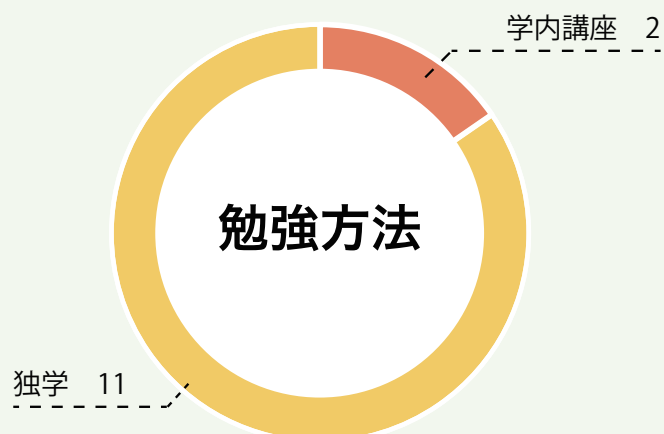
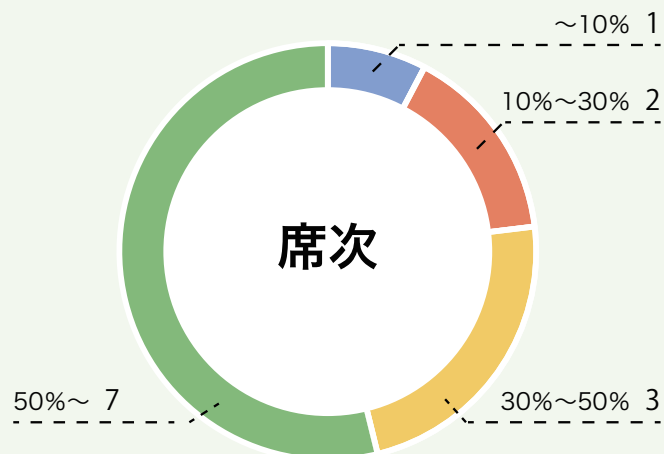
●区分選択の理由

事務系	院卒	人間科学	大学で学んだ専門分野の知識や経験を生かせるから。 大学院で教育学を専攻しているから 自分の職務・学術専門領域に一番近かったから。
		法律	学部での学びを直接活かせるから。 法学部所属のため 対策のしやすさ。 入省してから法律を使うと思ったから。
	大卒	経済	経済学に興味があったため 勉強のしやすさ 一番合格しやすそうだったため。
		政治・国際	一番勉強がしやすそうだったから。 国際関係論、国際法に興味があったから
		人間科学	科技系より教育系に携わりたかったから。
		教養	①早期に合否が分かるため ②他の区分の専門試験対策に自信がなかったため
	技術系	化学・生物・薬学	専攻分野だから 倍率が低いから 対策がしやすかったから。
		工学	専門分野だから
		数理科学・物理・地球科学	専門分野だから
		化学・生物・薬学	専門分野だから
	大卒	工学	科学技術を俯瞰的に捉えるためには生物学以外の 科学分野について学習が必要だと考え、 その第一歩の機会として今回工学区分にて受験することにした。

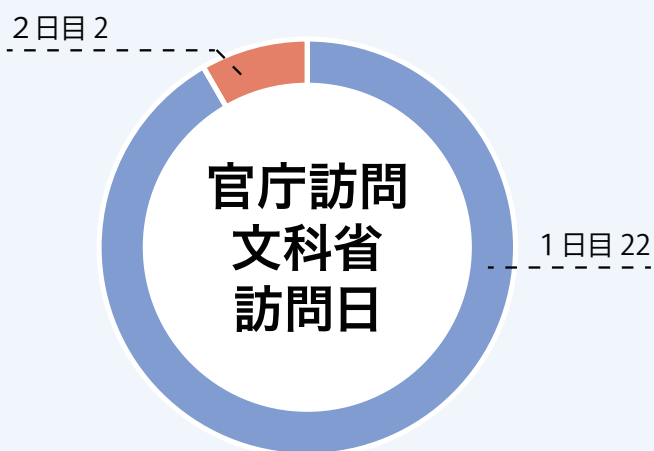
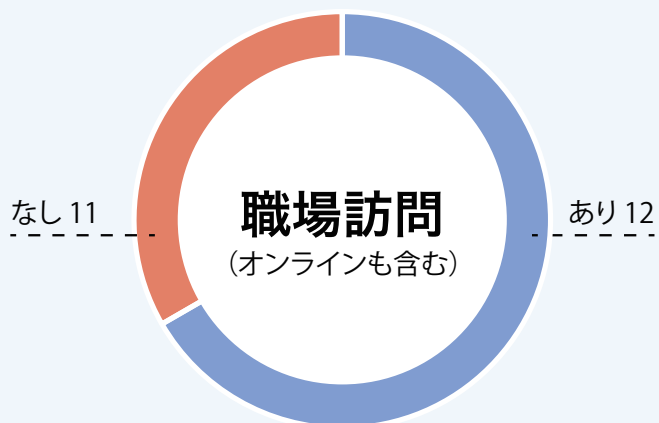
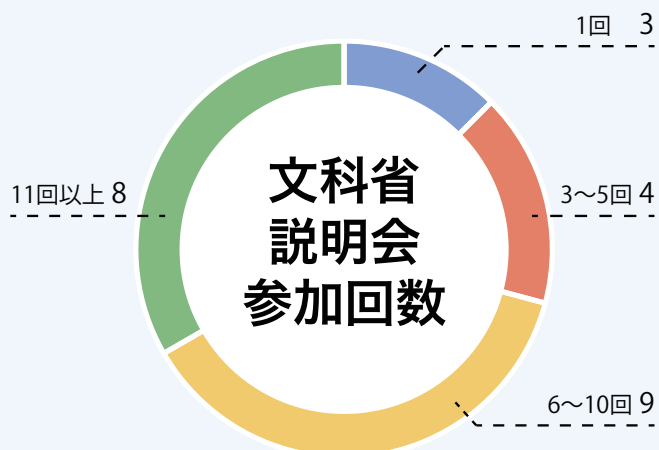
事務系 (24 人)



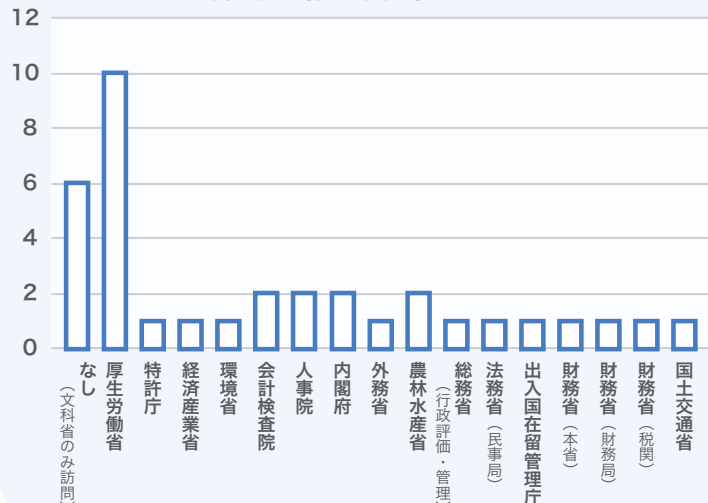
技術系 (13 人)



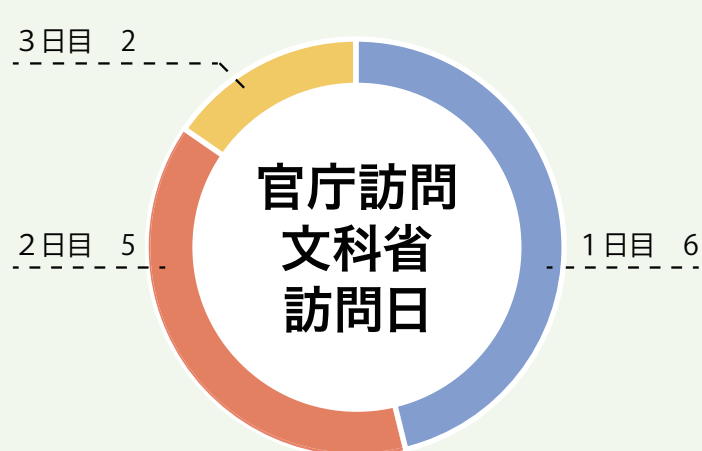
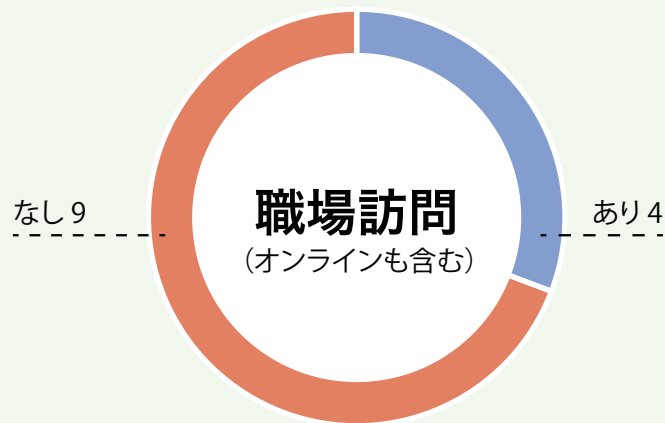
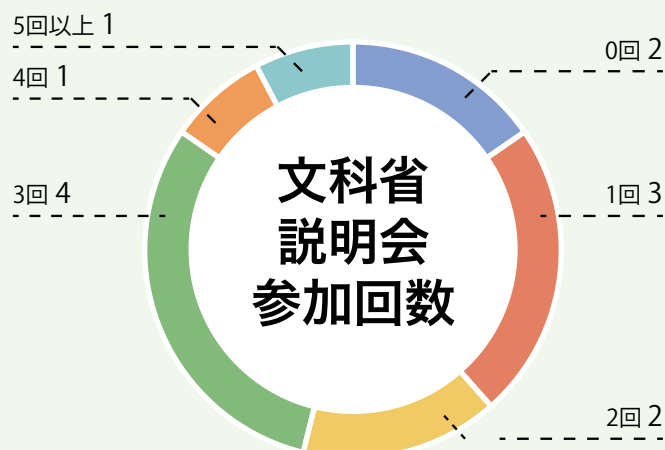
事務系（24 人）



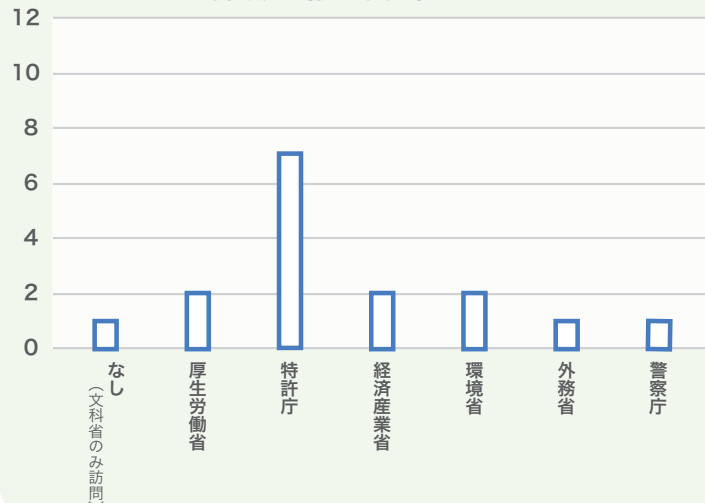
(人) ●官庁訪問 併願先（複数回答）



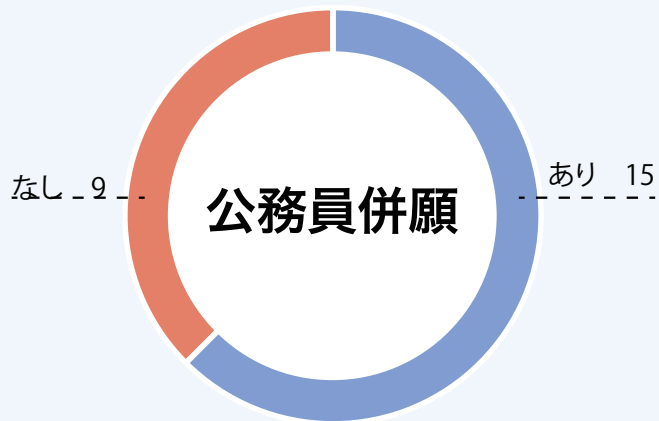
技術系（13 人）



(人) ●官庁訪問 併願先（複数回答）

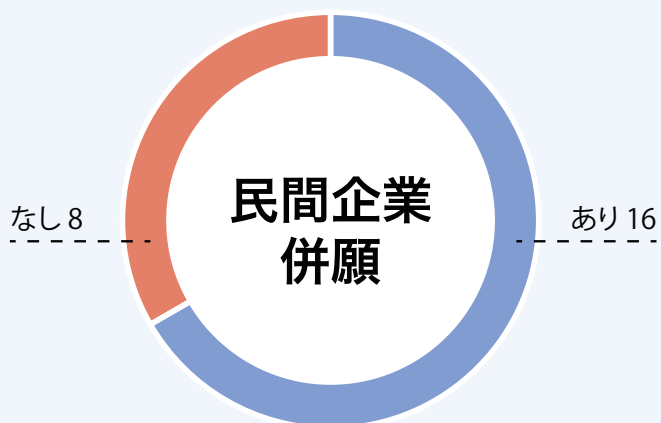


事務系 (24 人)

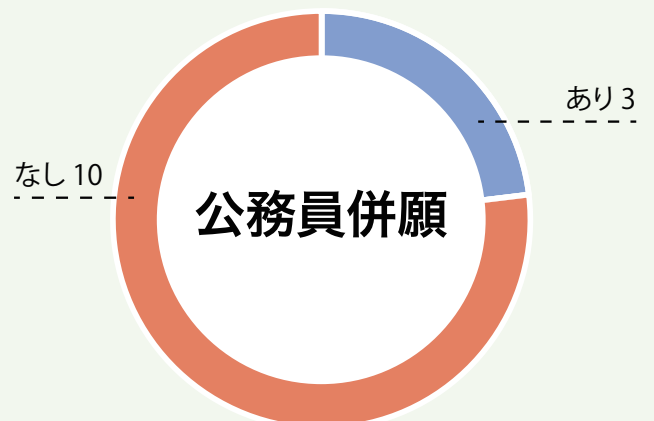


●公務員 併願先

地方公務員
 国家一般職・専門職
 裁判所総合職
 国立国会図書館
 参議院事務局
 教員採用試験
 参議院法制局

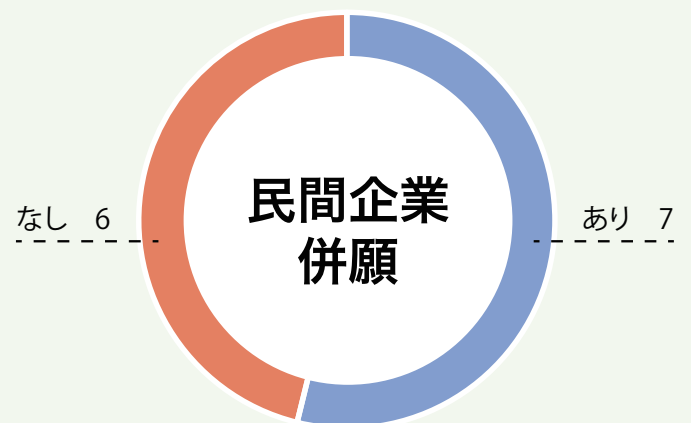


技術系 (13 人)

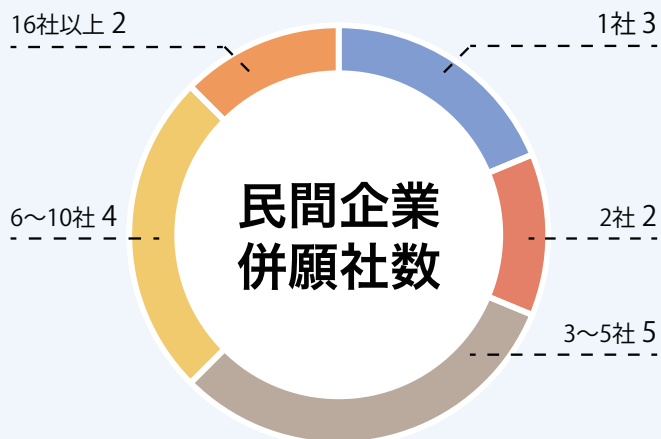


●公務員 併願先

地方公務員
 国家一般職・専門職



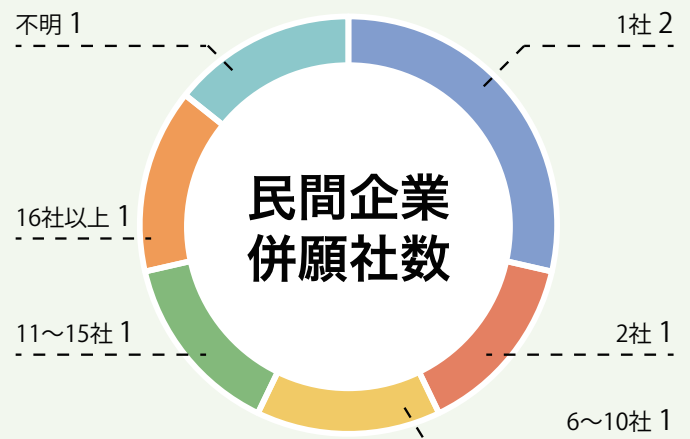
事務系 (24 人)



●民間企業 併願先

教育系企業
 人材系企業
 ソーシャルビジネス系企業
 NPO法人
 大学職員
 スポーツ系企業
 コンサルティング
 シンクタンク
 金融
 メガバンク
 銀行
 商社
 メディア
 マスコミ
 IT系企業
 総合ディベロッパー
 インフラ
 ゼネコン
 鉄道
 航空
 化粧品

技術系 (13 人)



●民間企業 併願先

大学教員
 コンサルティング
 金融
 インフラ
 エネルギー
 防災
 化学
 医薬品開発業界
 製薬業界
 調剤薬局

02.

内定者 プロフィール

内定者について
もう少し詳しくご紹介します。

2-1.

総 合 職
事 務 系

(総 合 職 施 設 系 採 用 を 含 む)

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

ゼミ活動に力を入れて取り組みました。国際安全保障論を専攻していましたが、自国の安全保障を考える上での現状分析、政策立案は行政官を志すにおいて大きな学びとなりました。またゼミ活動の中ではスチューデントアシスタントも務め、様々な意見を客観的に考察し一つの意見に集約できる力を身に付けようとして取り組みました。これらを通して、自分の関心ある分野において必死に取り組む事は必ず大きな財産になると思いました。

2. 文部科学省を志望した理由

労働力人口が減り、また痛ましい虐待等の事件が増える中で、創造的な学びを通して人的資源を高めると共に心の豊かさを守っていく必要性を感じました。そのような考えを持って小学校での授業補助活動に取り組む中で、生徒同士や先生との対話を通して多様な関心・問題意識を醸成していく事が重要であると考えました。その経験から全体を俯瞰した制度構築を通して創造的な学びを支え、人々の豊かさを守りたいと思い志望しました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

現代社会の抱える課題に対して多角的にアプローチ出来る事、そして幅広い分野を経験する事ができるため自分自身大きく成長できると感じた事、この二点が大きな決め手となりました。日々社会課題に対して最前線で取り組み、より良いものとしていく事ができるというやりがい、また自分自身が成長できていると肌で感じる事ができる環境は重要な要素であり、文部科学省の仕事にはそのやりがい、環境があると思い選びました。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

自分の問題意識がどこにあるのか、自分は人生をかけて何がやりたいのかを考える事が一番大変だったと思います。これらに対して答えを出すことは簡単なようでとても難しい事であり、日々自問自答した事を今でも覚えています。しかし、時間をかけて自分と向き合える機会はなかなかなく学生の特権であると今振り返ると思います。

職業選択という機会は人生において貴重な機会であると思って楽しんで過ごして下さい。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

先ほどの内容と被ってしまいますが、官庁訪問は人生において数少ない自分と向き合える貴重な機会です。官庁訪問に臨むにあたってはプレッシャーを感じる事もあると思いますが、自分の問題意識、やりたい事をこれだけ様々な人と議論できる機会はそうありません。

自分は選ばれる立場でありつつも選ぶ立場でもあり、それを様々な議論を通して判断してもらう事ができ、また判断する事ができる、そんな瞬間を是非楽しんで下さい。

官庁訪問先

文部科学省、農林水産省、出入国在留管理庁

休日の過ごし方

官庁訪問を通して仲良くなれた友達と東京観光をしていました。

官庁訪問の費用

20万円弱

控室の過ごし方

同じテーブルの受験生と談笑していました。

官庁訪問への持ち物

メモ帳、お菓子

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

バスケットボール部に所属し、途中でマネージャーに転向しながらも自分の立場でできることを常に考えながら取り組んできました。より良いチーム運営とは何かを同期や部員と話し合いながらマネージャーの立場でできる業務改善をしたり、専門である統計学を用いて試合の分析を行ったりといろいろな視点でチームを見ることで活動に貢献できたかなと思います。

2. 文部科学省を志望した理由

もともと教員を志望していて、教員養成系の大学に進学しました。そこで、学んでいく過程で子どもの周囲の環境を整備することがより良い学びにつながることや制度が整うことの重要性を感じました。教員もとても魅力のある仕事でしたが、より幅広く様々な視点で日本の教育全体（教員も含めて）を支えることのできる文部科学省という職場に魅力を感じ志望しました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

官庁訪問で職員さんたちの熱い話を聞いたことが一番の決め手でした。志望理由でも述べた通り、教育全体を支えることができる職場にとっても魅力を感じていましたが、何よりそこで働く人たちが高い志をもって業務に取り組まれており、純粋に私もこういう仕事がしたい！と思えたことが決め手になりました。文部科学省が第一希望でしたが、官庁訪問でさらに志望度が上がりました。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

官庁訪問の情報収集です。地方かつ予備校に通っておらず、官庁訪問の対策をどうすればいいのかわかりませんでした。ただ、面接は自分のことを知ってもらいながら楽しく話す場だと割り切って必要以上にネットの怪しい情報は当てにしないようにしていました。（笑）本番で楽しく話せるように自分の知識を整理したり、ホームページ等を読み漁ったり、自分がどういう人間なのか自己分析したりして官庁訪問に備えました。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

楽しく話をすることに尽きると思います。その前提として基礎的な知識や志望理由、自分の意見などはあるのかもしれませんが、せっかくその道のプロとお話しできる数少ない機会なのでその方の体験談をできる限り引き出してやろうという気持ちで面接に臨んでください。また、面接でここで働きたい！と感じられることも重要だと思うので自分が選ばれる側だけではなく選ぶ側だという意識も忘れずに。

官庁訪問先

文部科学省、厚生労働省、人事院

官庁訪問にまつわる話

ホテルの最寄駅からどう訪問するか試行錯誤していた。
おすすめは有楽町線で桜田門（遠いが相棒！ってなる）

休日の過ごし方

東京観光。官庁訪問中に仲良くなった子たちとスカイツリーと浅草に。

官庁訪問にかかった費用

15万くらい（交通費、宿代、ご飯代、スーツ代）

官庁訪問に持っていったもの

お菓子、記録ノート、充電器

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

多様な教育の現場に触れて考える活動をしていました。例えば学習支援のボランティア、家庭教師、カンボジアでの教育現場の視察、教育社会学を学ぶために海外留学をしていました。

2. 文部科学省を志望した理由

色々な子供とかかわるにつけ教育には社会を変革する力があると思うに至りました。しかし、現在の日本社会ではそもそも教育の機会が奪われている子供も存在するし、機会があっても進路を自主的に選択できず悩む子供也大勢います。教育の機会を増やすとともに、自分に合った進路を自由に選択できるような柔軟な社会を作りたいと思い、文科省を志望しました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

そこで働く職員の方とミッションを共有できたことが大きかったように思います。一人では解決できない大きな問題を、この職場にいらっしゃる職員の方たちとなら解決していけると直観的に思いました。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

官庁訪問中に体調を崩してしまったことです。疲れと緊張のせいか、第一クール中に 38 度以上の熱を出してしまいました。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

自分の実現したい社会、自分の強みや弱みと向き合うとき、自分で考えるだけでなく、友達や先輩など色々な人の力を借りてみてくださいね。

官庁訪問先

文部科学省、厚生労働省、内閣府

休日の過ごし方

体調を整えるために使っていました。

控え室の過ごし方

職員の方とお話した内容、その振り返り、次の面接で言うことについて、メモ帳にまとめていました。

官庁訪問に持っていったもの

今までの活動を振り返ることのできる思い出の品、お弁当

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

子どもの英語表現力を培うことをねらいとした外国語科の授業開発を、東京都とエチオピアの公立小学校と協働し行っています。国際交流の企画・広報・運営、教科教育内容としての活動構成・調整・実施、そしてこの一連の活動を教育実践研究として、現在修士論文にまとめています。研究活動の中で得た国内外の先生方や子どもたちとのご縁は、私の人生の財産です。

2. 文部科学省を志望した理由

「全ての人が質の高い教育機会を得られる社会」の構築に向け、課題を整理し、解決策を探ることに貢献したいと思ったからです。地方で生まれ育った経験や、国内外での教員経験を活かし、現場の視点や世界の中で日本を見つめる視点を忘れず、政策や施策の立案に総合職として携わっていきたいと思っています。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

博士課程に進むか、就職するかを迷っていました。私の職歴や世の中の見方考え方を仕事としてより活かせる場所は文科省なのかもしれない、と説明会や職場訪問、官庁訪問を通して気づけたことが、ここで働く決め手でした。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

本業と文科省の就職活動の両立です。私は2019年1月から5カ月間、海外でインターンをしていました。平日は9時から5時まで業務があり、かつ国外にいたため、筆記試験対策や面接対策にかけられる時間や労力に大きな制限があり、大変でした。直接説明会や職員訪問へ出向くことが困難な中、文科省の職員の方々がメールやスカイプを用いて対応して下さったのありがたかったです。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

自分というモノを、どういうパッケージをもって売り込めば価値を感じてもらえるか、考え実行することをオススメします。私が特に磨いた「パッケージ」は、志望動機を肉付けする「鉄板ネタ」の語り方です。人生経験を棚卸しして、自分ならではの世間に対する見方を見つけ出して、それを女優のように語り、営業のように提案しました(笑)面接官の心を動かすにはどうしたらいいか？を自分なりに考え実行できればOKと思います！

官庁訪問先

文部科学省

官庁訪問にまつわる話

控室の情報戦あるあるを知らず、プレッシャーで廊下で泣きました(笑)

休日の過ごし方

好きな本を読んでいた。

官庁訪問に持っていったもの

リラックスグッズ(スタバのコーヒー)

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

体育会所属だったので、部活（フットサル）に力を入れていました。実力不足で試合に出られない時も多くありましたが、自分が出場するしないに関わらず、共に努力してきた仲間とチーム一丸になって試合に挑んだ経験は自分の大学生活で1番の財産です。

2. 文部科学省を志望した理由

様々な社会課題の中で、その根底にある要素が「教育」であると感じたから。「教育」と「実社会」は切っても切れないものですが、社会の変化が激しくなるこれからの時代において、同じく足早に変化していくであろう教育行政に自分もその一員として携わりたいと思い、文部科学省を志望しました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

自分の価値観に共感してもらえ、また相手の価値観にも共感できたからです。おそらくこれから何十年と仕事をしていく上で、「この人達と一緒に働きたい」と唯一思えたのが文部科学省でした。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

国家総合職の試験勉強です。自分は大学の単位がそこそこ残っていたので、大学の講義と試験勉強を両立するのがとても大変でした。直前期は起きている時間はずっと机に向かっていて記憶があります。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

大切なことは①必要以上に格式ばらないこと ②自分の価値観を大切にすること ③相手の話をよく聞くことです。頭の回転や一定程度の知識はもちろん要求されると思いますが、それ以上に「生身の人間らしさ」を絶対に忘れないで下さい。

官庁訪問先

文部科学省、法務省

官庁訪問にまつわる話

第1クール3日目に厚生労働省を訪問しようと思っていたが、疲れすぎて起床した時には昼だったのでやめた。

休日の過ごし方

YouTubeでサンドウィッチマンのコントを見ながら寝ていました。

控え室の過ごし方

机にあったホワイトボードのようなもので絵しりとりをして遊んでいました。

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

これといって一つの事は挙げられないですが、目の前にあるすべてのことに全力で取り組んできました。大学2年から3年間続けた格差社会学ゼミでの演習や統計分析、4年間所属していた学内最大のテニスサークルの運営、小学生から高校生までの個別指導塾でのアルバイト、大学生協での新入生向けアドバイザーなどさまざまな場面で全体の調整役を務めた経験を活かし、入省後も何事にも全力で取り組みたいと思っています。

2. 文部科学省を志望した理由

幼少期から離島の過疎地域で育ち、出身地域による進学機会や就業機会の格差を感じてきました。個人のライフコースは家庭の経済状況や親の意向に大きな影響を受けていることは事実ですが、家庭環境の差異を補完できるものが教育であると考えています。文部科学省は教育制度の設計に携わることのできる機関であり、制度設計を通じて「全ての子供たちが夢と希望を持って成長していける社会」の実現に貢献したいと考え、志望しました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

もともと教育に関心があり、漠然と文部科学省にも関心を持っていました。大学3年の夏に文部科学省でインターンシップに参加し、実際の教育行政に携わる行政官の方々を見て憧れるようになりました。その後も説明会や官庁訪問で職員の方々とお話をさせていただく中で少しずつ気持ちが固まりました。また、教育・科学技術・文化・スポーツのいずれにも関心があったことも決め手の一つでした。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

地方出身、地方在住なので交通費や宿泊費などの金銭面が一番大変でした。インターン、説明会、官庁訪問と覚悟を決めて参加しましたが、毎回飛行機に乗っていたのでその点については悩みました。ただ、東京に行く以上はたくさんのことを吸収しようと思い、一回一回の機会を大切にすることを心掛けていました。地方から来ているという熱意も惜しみなく伝えました。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

官庁訪問では、政策の知識よりも自分の経験してきたことや実現したいこと、ここで働きたいという熱意が大切のように感じました。実際、志望動機や実現したいことはよく聞かれたような気がします。また、着飾った自分よりも等身大の自分で行くべきだと思います！緊張するとは思いますが、いい緊張感で自信をもって納得できるチャレンジができるよう心から応援しています！

官庁訪問先

文部科学省、財務省財務局、農林水産省

官庁訪問にまつわる話

ユースホステルで10人部屋にいました。寂しがり屋の自分にはいい環境でした！

休日の過ごし方

観光！田舎者なので東京観光はいい息抜きでした。

控室の過ごし方

周りの人に話しかけるか、職員さんと話したことをまとめてました。

官庁訪問にかかった費用

交通費 35,000 円＋宿泊費 50,000 円＋食費 15,000 円＝ 10 万円

官庁訪問に持っていったもの

ノートあればいけた気がします。

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

様々なことに取り組みましたが、特に力を入れたのはベンチャー企業での長期インターンシップ、国際協力団体の活動、ダンスです。活動自体もさることながら、様々なバックグラウンドを持つ人々と親交を深めたことで、自身の視野が広がりました。また、仲間と1つの目標に向かって取り組んだ経験は、私の財産になったと思います。

2. 文部科学省を志望した理由

人々が自らの能力を生かし、活躍できる社会の実現に貢献したいと思ったからです。これまでの人生で、自身が恵まれた環境にいることを実感し、自身の環境が当たり前ではないと痛感しました。そして、自身で生き抜く力を身につけられることと、そのための環境整備が必要だと感じました。教育を通して人々が持っている可能性を広げ、その人自身の力で未来を切り開く後押しをしたいと思い、志望しました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

①働く人の想いに共感したからです。説明会や官庁訪問での面接を通して、純粋に「一緒に働きたい!」と思える方々に出会えました。

②人生を懸けてやりたい仕事だと思えたからです。国の未来を左右する課題と日々向き合うことで、より良い社会に寄与したいと思いました。

③最後は直感です。元々第一志望だったということもありますが、自身が働く想像をしたときに一番しっくりきたのが文部科学省でした。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

焦りや不安への対処です。民間就活をメインで行う友人が早期に内定をもらう中で、自身はこのままで大丈夫なのかという焦りが常にありました。そこで、①自分が本当にやりたいことは何かを常に考える、②自身を客観視する、③最悪の状況を想定しつつ最善の行動をとる、という3点を心がけることでなんとか乗り切れたと思います。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

①自身と向き合ってください。自分がどういう人間なのか、なぜ志望するのかを考え続けることで、本当にやりたいことが見えてくると思います。

②自信を持ってください。これまでの人生で取り組んできたあらゆることが「自分らしさ」になっていると思うので、それを大切にしてください。

③会話を楽しんでください。各分野のプロからお話を伺える貴重な機会です。せっかくのチャンスを存分に生かしてください。

官庁訪問先

文部科学省、厚生労働省、会計検査院

官庁訪問にまつわる話

2日目に回る省庁の面接カード（各省庁HPからダウンロードし、印刷した用紙）の未記入のものを他の受験生から譲ってもらい、文科省志望者の優しさを感じた。

休日の過ごし方

先輩・友人と会う。

控え室の過ごし方

同じテーブルの受験生と談笑していた。

官庁訪問にかかった費用

5万～7万円

官庁訪問に持っていったもの

ノート、筆記用具、歯磨きセット

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

学部・大学院を通じて日本史の研究に力を入れていました。分野としては宗教史で、特に寺社の創建伝承や神仏の霊験譚などを記した寺社縁起と呼ばれる史料を対象としていました。授業やゼミを通じ優秀な同期や先輩から刺激を受けることが多く、振り返ってみると大変恵まれた研究環境だったと思います。

2. 文部科学省を志望した理由

日本の研究環境を向上させたいという思いがあったからです。資金やポストといった点から研究者になることを諦めざるをえない、あるいは研究を続けることが困難であるといった問題が深刻になっていることを、自分自身大学院で研究する中で痛感しました。学問の多様性を保つためにも、こうした問題を文科省での職務を通じて解決し、研究しやすい社会を目指したいと考えました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

官庁訪問を通じ職員の方とお話する中で、文科省でこそ自分の本来の目標を達成できると再確認したことが大きいです。決断するまで時間はかかりましたが、結局は初心と向き合いつつ官庁訪問での面接を思い返し、文科省に決めました。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

試験勉強です。自分は試験勉強を始めるのが遅く、科目もこれまで勉強したことがないものばかりだったので、内容を一通りおさえるので精一杯でした。大学院の授業の準備も並行して行っていたため、試験前の期間はかなり切羽詰まったスケジュールで勉強をこなしていました。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

面接相手の職員の方がどのような視点から政策に取り組み、どのような困難を解決してきたかを聞いたのは非常に良い経験でした。翻って自分が目指す行政官としてのあり方を考えられますし、それぞれの省庁への理解を深めることにもつながります。訪問期間中は相手から聞き、学ぶという姿勢を意識するとよいと思います。

官庁訪問先

文部科学省、環境省、人事院

官庁訪問にまつわる話

毎日ワイシャツにアイロンをかけるのが大変だった。

休日の過ごし方

面接の反省と質問の書き出しをしていた。

控え室の過ごし方

出身地ネタや旅行の話など四方山話を延々としていた。仮眠もとった。

官庁訪問にかかった費用

15000 円程度

官庁訪問に持っていったもの

ノート（必須）、飲料水（あると楽）

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

体育会ソフトボール部の活動に最も注力しました。技術が中々向上せず、苦勞することもありましたが、同期や先輩後輩とコミュニケーションを取りながら共に努力することを通じて組織の中で自分の役割を適切に見出して行動することの大切さを学びました。また、選手としての活動だけでなく、OB 会係という役職に就き、幅広い領域で活躍されている OB さんとの関わりを多く持てた点も大変貴重な経験であったと思います。

2. 文部科学省を志望した理由

国民各々が自らの生き方を選択できる社会を作りたいと考えたからです。私はこれまで学校や地域の周りの人々に自分の努力が認められることで自信を持ち、勉強やスポーツ等などで幅広い挑戦ができました。時代が急速に変化する中でも、教育やスポーツ等の政策を通じて選択肢を与えると同時に、その選択を支える先生などの現場の方の働く環境を整備することで国民各々が自分らしさや能力を発揮できるような人生の後押しがしたいです。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

所掌分野への熱意と職員の方の明るい考え方に惹かれたことの2点です。官庁訪問中、所掌分野に関する問題意識に関して自分のこれまでの多くの体験と絡めてお話しができ、文部科学省が素の自分が最も熱意を持ち、イキイキとできるような領域であると感じました。また、職員の方々が私の想いや疑問に対して常に明るい未来を念頭に置きながらお話を頂き、私もそのような明るい思考を忘れず、日本の将来を創造したいと考えました。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

限られた時間の中で、スケジュールを上手に立てることに苦勞しました。冬までは複数の業界のインターン等に参加する中で進路選択の幅は広がり、また、国家公務員への想いも強まりましたが、その間に受けた模試の成績は中々上がらず、焦ってばかりでした。そこで春以降はそれまでの就活の内容を振り返ることで改めて自分の就活の目的を見直して優先順位を付けて行動することを意識し、そのことが良い結果に繋がったと思います。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

官庁訪問は自分をアピールする場であると同時に、多くのことを学ぶ貴重な機会であると思います。多く職員の方々の職業観や考え方を聞き、自分が素直に共感できる点を多く蓄積してください。その上で、共感できる理由を自分のこれまでの経験等を振り返りながら一生懸命考えてください。迷うこともあるかと思いますが、一生懸命考えれば考える程、自分にとって後悔のない選択ができると思います。楽しみながら是非頑張ってください！

官庁訪問先

文部科学省、厚生労働省

官庁訪問にまつわる話

慣れないホテル暮らしで第一クール終了後に体調を少し崩しました。(体調管理にはお気を付けください…)

休日の過ごし方

帰省、寝る、東京の友人と会う

控え室の過ごし方

雑談、面接で学んだことを整理

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

大学時代は、二つのサークルと無料塾でのボランティア活動、短期留学や日頃の授業など、あらゆることに全力を注ぐことができた四年間でした。特に学部二年次にフィリピンで一か月ホームステイをした際には、すべての人が役割を持ちながら互いに支え合って暮らしている姿に感銘を受け、自分の居場所と役割がある中で人は幸せに生きていくことが出来るのではないかと考えるきっかけとなりました。

2. 文部科学省を志望した理由

自らが育った家庭環境、大学で日本の格差について学んだ経験、留学での出来事、そしてひとり親家庭向けの無料塾でボランティア活動が私の原点にあると思っています。それらの経験を振り返った際、生まれた環境が原因で将来への希望が見えない子どもたちや、不遇な幼少期を過ごし今なお困難を抱えている方々を支え、日本の貧困や格差をなくしていくことに携わりたいと考えたためです。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

就職活動中は民間企業やNPO、他省庁を回り、文科省以外の立場からも自身の目標を達成できないか模索していました。ですが、単に社会的弱者の方々に支援をするだけでなく、それぞれが持つ強みが活かされ、社会に貢献できる喜びや周囲との繋がりが得られるようにしたいと考えるに至りました。文科省の所管領域はどれも人の可能性を伸ばすものであり、同じような志を熱く語ってくださった職員の方々にも惹かれ入省を決めました。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

大変だったことは三つあります。一つは、公務員試験・官庁訪問ともに同じ大学内の経験者が非常に少なく、情報収集と人脈を得るために何かと奔走しなければならなかったことです。二つ目は、自分の成し遂げたいことに関与できる民間企業を見つけることが相当に難しく、道の開けない中で就職活動を続けていた時期です。三つ目は、官庁訪問時に最後の最後まで考え抜き、思いの丈を職員の方に伝え続けてきたことです。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

忙しい中ですが、人生でお世話になった方々との会話を大切にしてください。私は自分の志望動機に繋がる教育のバックグラウンドについて、親とこれまでになく会話をし、文科省への確固たる熱意を得ることができました。また官庁訪問中の土日に友達とご飯を食べに行き、友人からエールをもらったことが、残りの官庁訪問で困難に打ち勝つことのできた由縁だと思っています。皆さんにお会いできることを楽しみにしています！

官庁訪問先

文部科学省、厚生労働省、総務省

官庁訪問にまつわる話

一睡もできずに官庁訪問の朝を迎え、史上最悪の体調で文科省に向かったが、これがご縁の始まりでした。

控え室の過ごし方

同じテーブルの学生と話していました。休憩中に聞いた経験談や文科省への思いは今でも記憶に残っています。

官庁訪問に持っていったもの

自分の考えをまとめたノートや参考資料

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

教育心理学系のゼミに所属し、中学校の音楽科の授業実践に関する研究を行なっています。実際に学校現場で様々な科目の授業を見せていただき、教員の方々と授業研究をしてきました。修士論文では、その経験等を生かし、生徒の発達段階に応じた音楽科の授業実践について検討しています。

2. 文部科学省を志望した理由

1番大きいのは、学校教育に関わりたいという思いがあったことです。また、様々な地域にある学校現場を見せていただく中で、人的・物的資源に関する地方格差を痛感しました。私は、義務教育に関して生まれた地域、環境にかかわらず、誰もが平等であるべきだと思います。特定の学校だけでなく、教育を大きな視点で捉えて仕事することができる文部科学省を志望しました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

文科省は、様々な分野を管轄していることもあり、多様なバックグラウンドと価値観を持った人たちが集まっています。官庁訪問中に職員の方々や同期の仲間と色々なお話をさせていただく中で、そういった人たちと働くことの面白さを感じました。また、長期インターンシップに参加し、文科省の仕事の一部を3カ月間経験させていただいたことも影響しているように思います。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

公務員に限ったことではないですが、就職活動と大学院の研究の両立が一番大変でした。体力的にもスケジュール的にもギリギリになってしまった感覚があります。「自分にとって今なにが大事なのか」という優先順位を決め、効率よく進めていくことが必要ではないかと思います。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

「官庁訪問の前にどれだけ情報を集められるか」がポイントになると思います。それぞれの省庁に仕事の特徴があり、官庁訪問のスタイルがあります。それを知っているかどうかで精神的に強くられるかが決まってくるような気がします。説明会に出向いたり、内定者に話を聞いたりしながら、自分なりにイメージを膨らませて臨むことをオススメします。

官庁訪問先

文部科学省、厚生労働省

休日の過ごし方

大学院に行ったり、バイトに行ったり、とにかく普通に過ごしました。

控え室の過ごし方

控室で同じテーブルに座っていた人と談笑した。

官庁訪問にかかった費用

交通費のみ(3000円程度)

官庁訪問に持っていったもの

メモ帳、美味しいご飯、扇子

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

朝まで生テレビという生放送の討論番組で視聴者の意見を集約する電話オペレーターをしていました。大学の中だけでは聞くことのできない多様な人たちの意見を聞くことができました。また、スウェーデンに1年間留学し、多文化・多民族の社会での教育や障害のある人のための教育などを学びました。海外の進んでいるところだけでなく、日本の良さについても改めて学びが深まりました。

2. 文部科学省を志望した理由

長期的な目線で教育を良くしていくことに携われることに魅力を感じました。いわゆるマイノリティに対する教育が関心の一つなのですが、メインストリームではない人々に向けて取り組むには、短期的な利益を求めなければならない民間企業では難しいと思います。10年後、20年後の未来に向けて政策を考えていくことは難しいことでもあり、面白いことだと考えています。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

2年生の時に文部科学省にインターンに行ったのですが、職員の方々が暖かく迎えてくださいました。文部科学省には仕事に熱意を持って働いている方々が多く、この職場で働きたいと考えようになりました。世間からの批判が多い昨今ですが、教育がそれだけ世間の関心を集めている重要な分野だからこそだと思います。人事交流のおかげで色々な分野に携われるのも、好奇心の強い私にとって魅力でした。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

教育学部だったので、公務員試験のために法律を1から勉強するのが大変でした。入省してから使うだろうと思い、あえて人間科学ではなく法律を選んだのですが、試験直後は手応えがなかったためにとっても後悔しました。反対に官庁訪問は最前線で活躍されている職員の方々とお話しすることができたので、楽しく乗り越えられました。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

官庁訪問は「落とす」ために行なっているのではなく、皆さんの想いを「聞く」ために行なっているのだと思います。職員の方を試験官として見るのではなく、自分の熱い想いを受け止めてくれる相手だと思って話してみてください。また、職員の方がどんなことに取り組んでいらっしゃるのかを聞くチャンスでもあります。ぜひ楽しんでください。

官庁訪問先

文部科学省

休日の過ごし方

塾講師のアルバイトに行っていました。

控え室の過ごし方

他の受験者と入省したらやりたいことを共有しあっていました。

官庁訪問にかかった費用

1万円弱

官庁訪問に持っていったもの

メモ帳、お菓子、チェス

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

官民協働ネットワーク・クロスオーバー (20～70歳の公務員・民間・学生等会員約1000人による社会問題の異業種勉強会) の活動で、児童虐待問題の異業種ダイアログを企画しました。多くの社会人を活動に巻き込むためには、相手の立場に思いを馳せ、熱意や感謝を伝え、信頼関係を築くことが必要だと学びました。同時に、社会問題を自分事化する「公共心」を向上させながら、児童虐待問題に対する理解を深めました。

2. 文部科学省を志望した理由

日本人が将来に対して安心感を持ち、他者と支え合いながら生きる社会を実現したいからです。私は子供が大好きです。私の夢は、「日本の全ての子供達が山あり谷ありの人生を歩む中で、日本に生まれてきて幸せだった！」と思える社会を創ることです。公務員の父親が病死した後、母子家庭となった経験から、幸せな人生には将来に対する安心感と人々の支え合いが大切だと感じ、これらを文部科学行政によって実現したいです。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

子供たちのために一生懸命仕事をしておられる職員の姿にハートを射抜かれました。。。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

特になし！！国家公務員試験も官庁訪問も民間就活も学生生活も何もかも楽しんでできました！！！！

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

- ・「理想的な日本のあるべき姿は何か」「その日本の理想像を追う中で、文部科学省が果たせる役割は何か」「その役割を文部科学省が果たすために、自分は文部科学省で何をやりたいのか」「そのやりたいことをやるために、どんな大人になりたいか」、等々の基本的かつ大切な問いと向き合い続けること
- ・これらの問いに対する、自分なりのオリジナルな考えを、20数年生きてきた人生の経験を総合して導き出し、職員にぶつけること

官庁訪問先

文部科学省、厚生労働省

官庁訪問にまつわる話

今だから言えますが、初日にもう整理番号カードをYシャツと一緒に洗濯して粉々にしてしまったこと。。笑

休日の過ごし方

政策の勉強。職員からのご指摘やアドバイスを面接中にとった官庁訪問ノートを見ながら復習した。

控室の過ごし方

ノープランでした。。。

官庁訪問にかかった費用

3000円くらい??

官庁訪問に持っていったもの

熱意、元氣、笑顔

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

地方大学への進学に伴う環境の変化や一人暮らし、長期留学、教職課程、研究、ボランティア、アルバイトなどやりたいと思ったことはチャンスがある限り挑戦し続けました。都内の片隅で家族と生活していた高校時代からは想像することもできないような、地方の厳しい現状、所得や教育機会の格差、多様な文化や価値観などに触れ、「人々がより豊かに生きるために何が必要か」ということを考えるようになりました。

2. 文部科学省を志望した理由

誰もが生まれた環境や特性に関わらず、各々の意思・能力・努力に応じた自己実現のできる社会を実現したいと考えたためです。私は学生生活を通じ、北海道全域の教員や障がいを持つ子ども、異国で学ぶ子どもの存在を知り、全ての子どもが置かれた環境や特性が極めて多種多様であることに初めて気づきました。一人ひとりに寄り添った教育を通じて個々の力を最大限引き出し、豊かな自己実現に貢献したいと考えています。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

「全ての人の自己実現を通じた豊かな社会の実現」という大きな自分の中での使命感を、文科省の所掌業務を通じて達成すべきだと最も強く思ったからです。国家公務員は様々な角度からあらゆることに取り組みます。全ての省庁、あるいは民間企業から様々なアプローチがある中で、私なりの経験から教育というほぼ全ての人が通る道を通じて実現したい、私の力を使って実現すべきだと強く感じられたのが最終的な決め手となりました。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

就活全体では精神的な落ち込みが大きく、4・5月頃はかなり疲弊しました。東京と札幌を時には週に何往復もし、ESと面接準備の合間を縫って機内で公務員試験の勉強や研究を進める約3カ月間は精神的にも身体的にも、金銭的にも苦しかったです。しかしながら人生における大きな岐路において、全てやってみたいことには挑戦した結果、自分が何を成し遂げたいかどう生きたいかが明確となり、悔いのない選択ができたと考えています。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

官庁訪問は大変な長丁場で、情報も錯綜し、身体的にも精神的にもかなり辛い日々となる人が多いと思います。でも、そこで萎縮してしまっても何も始まりません。ぜひ、各省庁での貴重な出会いを大切に、自らをさらけ出し、周囲から新しい知識や経験を吸い取って成長するポジティブな機会にしてください。楽しく話せるように口角上げて臨みましょう

官庁訪問先

文部科学省、財務省税関、会計検査院

官庁訪問にまつわる話

省庁によって面接回数や待機時間が全く異なって驚きました。

休日の過ごし方

温泉行って買い物しました。実家を出て以来初めて誕生日を実家で迎えました。

控室の過ごし方

最初はパンフレットを読んでいたのですが、徐々に飽き、修論のための論文を読んでました。

官庁訪問にかかった費用

7万くらい

官庁訪問に持っていったもの

パソコン、大学の研究資料（論文など）

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

ホテルのアルバイトで清掃に関するクレームを0にしました。フロントスタッフの立場から現場目線で取り組むことを大切にし、「実際に清掃スタッフとして働く」「支配人の共感を得て、一緒に清掃してもらい、経営者側の視点を共有」の2点を行いました。これらによって、髪の毛を目視で確認しているだけ、ごみ箱が小さすぎる等の課題点が見つかり、それらを改善した結果、清掃に関するクレームが0になりました。

2. 文部科学省を志望した理由

誰もが自助努力によって自らの可能性を高め、自己実現することができる社会を作りたいため志望しました。高校生の時に途上国の発展には教育が最も重要であると思ったことがきっかけで、教育によって人々の可能性を広げる仕事がしたいと思いました。貧困の連鎖が生じているわが国では、すべての国民が必要な教育を受けられる環境を作ることによって学力格差を是正する必要があり、またこれは労働生産性を向上させる上でも意義があります。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

教育・科学技術・スポーツ・文化を所管する文部科学省でこそ、誰もが自助努力によって自らの可能性を高め、自己実現することができる社会を作ることができると思ったからです。特に私は子どもの貧困対策について関心があり、すべての子どもが十分な教育を受けられるような環境づくりがしたいと思いました。また、国際機関や他省庁への出向を通じて成長し続けられるというのも魅力の一つでした。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

やはり官庁訪問が一番大変でした。(笑) 朝から晩まで拘束されるなかで、自分なりのやり方でモチベーションを保つことが大事だと思います。私は、精神的疲労からかよくおなかが空いたので、面接の合間におにぎりを何個か食べていました。また期間中でも、悪いところは反省し、よかったところは次に活かして、最後まで成長し続けることが大切だと思います。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

入省後にどのような政策を立案したいかという点について最も考えるべきだと思います。そのためには、文部科学省が所管する業務の中でできることは何かについて考えたり、様々な利害関係者の視点から政策をみたり、説明会に足を運んで行政官の考え方を吸収したりする必要があると思います。また、官庁訪問期間中は、笑顔で前向きに挑むことが大切だと思います。

官庁訪問先

文部科学省

官庁訪問にまつわる話

高校の部活の先輩に5年ぶりに会った。

休日の過ごし方

入省後やりたい政策について、多角的な視点から見直した。

控室の過ごし方

栄養補給、知り合いがいたのでやりたい政策について聞いてもらった。

官庁訪問にかかった費用

3000 円

官庁訪問に持っていったもの

メモ帳、軽食

15

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

(記述なし)

2. 文部科学省を志望した理由

両親が教育関係の仕事をしていたこともあり、幼少期から「教育」に関心がありました。大学入学直後から塾講師や家庭教師として働き、教育系 NPO にも参加していく中で、「教育」にもっと広い視点で携わりたいという気持ちが強くなりました。一方で、バックグラウンドが理系であることもあり、あわよくば日本の「科学技術」の発展にも関わることができたらいいな、と漠然と考えていた折に、文部科学省が思い浮かんだ次第です。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

「一緒に働いてみたい」と思える職員の方が多くいらしかったからです。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

試験や官庁訪問は「世の中を知るための良い経験」くらいに考え（ようと）していたため、期間中にネガティブに感じられた出来事はあまりありませんでした。ただ、私の場合、文部科学省には第 2 クールからの訪問でしたので、待合室などで受ける「出遅れた感」は若干堪えました。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

官庁訪問に限らず、就職活動は、社会に飛び出す前に改めて自分自身と向き合える大変良い機会です。「自分が最も納得できる選択は何なのか」。私は文部科学省を訪問したのが第 2 クールから、そして理系なのに事務系採用、という変わり種ですが、それでも内定を頂くことができたのは、拙いながらもこうした信念のようなものを伝えられたからなのかな、と自負しています。皆様もご自身の信念を面接官に全力でぶつけてみてください！

官庁訪問先

文部科学省、特許庁、経済産業省

官庁訪問にまつわる話

汗だらだらで受付の列に並んでいたら、優しい職員の方に「大丈夫ですか？」と心配された。

控え室の過ごし方

情弱だったので、無関心を装いながらも周りの話に聞き耳を立てていた。

官庁訪問に持っていったもの

扇子、汗ふきシート、着替え

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

私が学生時代に力を入れたことは、準硬式野球部での選手と主務の両立です。私は投手としてもプレーし、東京六大学準硬式野球連盟の学生委員としての活動も精力的に行いました。学生主体を掲げる連盟では、学生に任せられる責任が重く、各大学の委員と密に連携しながら連盟及びリーグ戦を運営してきました。私は特に渉外部門を担当し、連盟パンフレットの広告企業との交渉や実際のパンフレット作成を担当しました。

2. 文部科学省を志望した理由

私は教育・スポーツ・文化等の諸分野において、きっかけ作り・サポートを通して様々な人が夢や希望を持ったり、その夢や希望を実現したりするための手助けがしたいと思い、文部科学省を志望しました。特に若者や働き盛り世代のスポーツ離れが進行する現代日本において、自身が経験したスポーツを「する・見る・支える」という夫々の魅力を多数の人に感じてもらい、スポーツを通して様々な夢や希望を持ってもらいたい。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

自分の興味ある分野(スポーツ・文化・教育)に幅広く関わることができる環境だと思ったことが決め手です。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

公務員試験の勉強が一番大変でした。教養区分は一次試験の試験範囲が広く、また二次試験も企画提案試験や政策課題討議等があり苦心しました。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

官庁訪問で一番大切なことは自分が今までやってきたことを信じて自信を持ち続けることだと思います。官庁訪問期間中は緊張しっぱなしで精神的にもきついでしょうし体力的にもきついと思います。そんな時こそ今まで自分の積み重ねを信じてみてください。信じ抜いて信じ抜いたその先には必ず自分自身が望む未来が広がっているはずです。

官庁訪問先

文部科学省、厚生労働省

官庁訪問にまつわる話

夜飯に食べたカレーが美味しかった。

休日の過ごし方

部活に行っていた。

控室の過ごし方

控室に置いてある漫画を読んでいた。

官庁訪問にかかった費用

5000 円

官庁訪問に持っていったもの

メモ帳、タオル、制汗シート



1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

大学の勉強と塾講師のアルバイトを頑張りました。前期2年では広く教養を身につけることによって、思考の基盤となる幅広い知識を得られるよう勉学に励みました。後期の専門課程では、社会学理論や、事象を社会的にまなざす研究アプローチを学びました。塾講師のアルバイトでは、勉強が苦手な子への指導を行うことを通じて、改めて学びの大切さを知りました。

2. 文部科学省を志望した理由

就職活動を通じて幅広い業界を見ましたが、その中で国家規模の問題を考えられる官僚に魅力を感じました。特に、教育という全ての人間に通ずる生の根幹部分の改革に携わってみたいと思い文部科学省を志望しました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

幅広い視野をもつ財務省と迷いましたが、最後に物事を動かしていくためには現場をもっている官庁だと人事の人に言われて文科省に決めました。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

第3クールで訪問する官庁を選ぶのが一番大変でした。当日の朝、集合時間の5分前まで迷いました。最後の決断はとても苦しかったです。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

普段からいろいろなことを考えて、それを面接官に正面からぶつけることが大切だと思います。

官庁訪問先

文部科学省、財務省

控え室の過ごし方

本を読んだり、スマホをいじったりしていました。

休日の過ごし方

寝てました。

官庁訪問に持っていったもの

筆記用具

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

日中韓の関係改善に少しでも貢献したいという思いから、友人らと共に日中韓の学生語学交流プロジェクトを運営する学生団体を立ち上げ、国籍や年齢、大学が多様なメンバーの中、最年少ながら、初代代表を務めました。このプロジェクトは、例えば、日本語を勉強している中国人学生と、中国語を勉強している日本人学生をマッチングして互いに学び合ってもらおうというもので、在任中に100を超えるペアを生み出しました。

2. 文部科学省を志望した理由

米国留学の際に、日本の相対的なプレゼンスの低下を目の当たりにし、我が国は今後国際社会で生き残っていくことができるのだろうか、という漠然とした危機感を抱きました。資源小国である日本にとって、最大の資源は「人」であり、国力の源泉たる国民一人一人が能力を最大限に発揮できる環境を整えるとともに、地球規模で活躍できる人づくりに、主体的に携わりたいと考え、文部科学省を志望しました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

私は就職先を考えるにあたり、「どこで働くか」×「誰と働くか」を基準にしていました。その上で、文部科学省の所管している分野のどれもが私の関心と一致していたことと、職員の方々とのフィードバックが決め手になりました。説明会や官庁訪問などでも、文部科学省の職員の方々とお会いしたり、お話したりするときはなぜだかいつも居心地が良くて、「この方々と一緒にお仕事がしたい！」という思いに突き動かされました。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

試験勉強以上に、官庁訪問に至る過程が大変でした。恥ずかしながら、就活を始めるまで、自分自身を客観視したり、自分の将来について真剣に考えたりした経験があまりなかったため、自己分析を繰り返しては、自分の“軸”を突き止めることに苦労しました。また、説明会や政策シュミレーションに参加した際、実力のなさに自信を失い落ち込むこともありました。色々な人に支えられて無事内定を頂くことができ、本当に感謝しています。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

ありきたりですが、体調管理には気をつけましょう。自身のできうる最高のパフォーマンスをするためには、コンディションを整えることがとても重要です。官庁訪問中は、体力面はもとより、精神的にも想像以上に疲弊していると思うので、休みすぎた！くらい休むのがちょうど良いと思います。あとは、想定外の出来事が起きてても動じないことです。これまで積み重ねてきたことを信じて、体に気を付けて頑張ってください！

官庁訪問先

文部科学省、外務省、内閣府

官庁訪問にまつわる話

第四クールの時、朝ものすごく体調が悪くて、タクシーで文科省まで向かったこと。

休日の過ごし方

気が済むまでひたすら寝た。そのほかの時間で訪問した各省の面接の振り返りをした。

控室の過ごし方

面接の振り返りをしていた。面白かった話や疑問点・反省点等をメモした。後は、同じ机の人と雑談するなど。

官庁訪問にかかった費用

実家の為、交通費・食費のみ

官庁訪問に持っていったもの

メモ帳、軽食（お菓子など）、資料（パンフレットや説明会で頂いた冊子等）

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

高校の世界史の授業で触れ感銘を受けたハワイの伝統舞踊「フラ」を学びたいと、大学時代サークルの立ち上げ、運営を行いました。学部の勉強や留学、塾講師のバイト等に励む傍ら、この活動を通してメンバー全員が生き生きできる環境を作るために必要なものは何か、組織の育て方について考えを深め、創意工夫できたことは貴重な経験でした。勿論フラからの学びも大きく、ライフワークとして現在も続けています。

2. 文部科学省を志望した理由

「私なんて、どうせ無理」と言う人と出会ってきた中で、全ての人が可能性の芽を伸ばし、豊かな人生を歩める社会を築きたいと思いました。

そのためには人財を育む教育制度・基盤を守るとともに、あらゆるライフステージで学び直し、軌道変更する機会を充実させ、より多くの人が自己肯定感を持って生きられる制度改善をしていくことが重要と考え、教育を中心に「人の豊かさ」に最も真剣に向き合えると思った文科省を志望しました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

私は大学時代の就活で文科省を受け、その時一度心を決めかけたものの、不安が拭い切れず、最終的にファーストキャリアは商社を選択しました。その選択に後悔はないものの、教育への想いは変わらず、就活生の時はなかった自信と確信を得て再度文科省の門を叩いた際、快く向き合い、何を経験し考えてきたか真摯に話を聞いて下さった職員の方々に「おかえりなさい」と言われ、戻ってこられた嬉しさとともに想いを固めました。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

試験勉強も官庁訪問も、他の活動との両立に最も苦心しました。加えて試験勉強は忍耐力も必要でしたが、官庁訪問に関しては一度目、二度目ともに、職員の方や受験生と今日はどんな会話ができたかがあるのだろうとむしろ楽しんでいました。それでも二度目の官庁訪問は働きながらだったため、連日の頭の切り替えにエネルギーを使いましたが、考えたことは常にメモに残し、「だめならその時」と平常心を保つよう心掛けました。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

未来の同期を見てもほぼ似通った経験を持つ人はおらず、多様な生き方や価値観を職員それぞれが体現できる場なんだと内定後、改めて感じています。ですので、受験生の方にはご自身のこれまでの生き様、また現在抱えている迷いや不安があるならそれも一緒に、全て正直にぶつけていただきたいと思います。どの道も最後正解にできるのは自分だけです、まずは皆さんが現時点で最も幸せに、生き生きできると思える道を全力で模索して下さい！

官庁訪問先

文部科学省

官庁訪問にまつわる話

一度目の官庁訪問初日、地元駅のエスカレーターで転んで膝を切り受付時間に遅れました。焦りは禁物です。。

控え室の過ごし方

面接の様子を報告し合い、メモをとった後はひたすら雑談したりホワイトボードで絵しりとり等していました。

官庁訪問に持っていったもの

就活ノート、チョコ、ストッキングの替え

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

学生寮の自治会長として寮生間の利害調整に努め、この経験から利害が対立する人々をまとめるリーダーシップの在り方を学びました。

ただ官庁訪問まではこのエピソードについて、海外留学・インターン・事業立案といったものに比べてどうしても「弱い」ものに思え、自信が持てませんでした。しかし、振り返ってみれば「何を経験したか」ではなく、「そこから何を学び、どう糧にしたか」が重視されていたのだと思います。

2. 文部科学省を志望した理由

幼少期より家族で科学館や図書館に通った経験から、科学技術や研究・教育活動に興味を持ちました。その後自身の進路選択において経済的不安を感じた経験から、子供の教育を受ける機会が外因に大きく影響されることに強い憤りを覚え、彼らのためにできることをしたいと考えようになりました。そうした自身の興味・関心に合致したため、文部科学省を志望しました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

そもそも教育政策や科学技術政策に強い関心を持っていたため、具体的な就職活動に入る前から文部科学省を強く志望していました。そのうえで、説明会や職員訪問等を通じて文部科学省の職員の考え方や価値観が自分と近いことを実感し、ここでなら違和感なく働けると思って決断しました。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

民間企業や他の公務員の内定がなく、官庁訪問が上手くいかなかったときのおさえがなかったことは精神的にかなり負担でした。「引っかけたら儲けもの」という程度の気持ちでしか国家公務員以外の就活をしてこなかったため、直前期になると後がない不安に悩まされました。一方で多くの時間を公務員試験・官庁訪問対策に充てられたのはメリットで、それが内定につながったのかもしれない。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

説明会や職員訪問といった機会をぜひ活用してください。常日頃から色々と考えていても、いざ言葉をぶつけようとするとなんか煮詰まっていけないことに気づきます。また、職員さんに食らいつこうと必死に話しているうちに自分でも気づいていなかった考えや価値観が言語化されることもあります。会話を繰り返す中で自分がどういった人間なのか把握し、官庁訪問では堂々と「自分」を提示できるようにすれば内定は間違いのないでしょう。

官庁訪問先

文部科学省

官庁訪問にまつわる話

初日に適当につけられたあだ名が内定後も通称になった

休日の過ごし方

手ごたえを感じてからは遊んだりスイカスムージー作ったりと適度に息抜きをした

控室の過ごし方

内定者同士で雑談（愚痴なんて言ってないよ）、面接直後は内容のメモ

官庁訪問にかかった費用

5千円程度

官庁訪問に持っていたもの

バインダー（メモが取りやすい）、ラムネ（脳にいい気がする）

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

引退するまでは、部活第一でした。引退後～大学院では、学内イベントの企画・運営に携わり、多様性や共生、マジョリティの特権についてみんなで考えられるような機会作りに力を入れていました。

2. 文部科学省を志望した理由

自分の気になっている問題について、思考したり不満を言うだけでなく、実際に取り組める／変えられるところで働きたいと思ったから。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

官庁訪問での経験が大きな決め手になりました。まず、さまざまな政策に携わってこられた職員の方とお話しし、改めてその幅広さを面白そうだと考えました。また、社会のここを変えたい、という思いを持っている職員さんが結構いそうだと感じたのも、魅力的でした。あとは、服装や髪型が思ったより厳しくない（気がする）。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

長期戦だったこと。メンタルやモチベーションを保つのが大変。自分の場合は、公務員試験を、研究活動や民間の就活と並列で扱うようになってからの方が楽でした。種々の予定が入っている方がリズムを作りやすいというのもあるし、他の活動を通してやはり文科省で働きたいなという気持ちを再確認できたように思います。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

官庁訪問は、評価される場であると同時に、いろいろな分野に携わっている職員さんと話せる、貴重な機会でもあります。興味のある分野や政策について事前に調べて自分の考えや疑問をまとめておくと、スムーズな受け応えに繋がりますし、なにより有意義な面接になると思います。

官庁訪問先

文部科学省

休日の過ごし方

友人と遊んだり、映画を観たり。

控え室の過ごし方

同じテーブルの人たちで絵しりとりをした。

官庁訪問に持っていったもの

小腹を満たせるお菓子

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

学業に加え、短期留学や学習支援ボランティア活動、アルバイト等、興味の赴くままに様々活動していました。今振り返ってみると、学生時代に取り組んできたことの多くが、多少の差はあれど「文科省で働く」という選択肢を選ぶにあたり影響していたように思います（現に大学入学当初、自分が国家公務員という進路を選択するとは全く考えていませんでした）。

2. 文部科学省を志望した理由

日本に暮らしているすべての人が、生まれ育った環境、地域に関わらず、生涯自己実現のために挑戦し続けることができる社会づくりに少しでも貢献できれば、と思っています。大学時代を地方の大学で過ごした経験から、このような思いを抱くようになりました。この問題意識にアプローチする方法は多々あるのかもしれませんが、とりわけ教育、人材育成という視点から取り組みたいという考えから、文科省を志望しました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

- ・文科省の所管する分野すべてが自身の関心と重なったため
- ・大学で学んだ・研究したことを少しでも生かすことができる分野であると考えたため
- ・説明会に足を運ぶ中で、職員の方々のお話に共感する部分が大きかったため

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

公務員試験に向けた勉強と大学院での研究の両立です。私は公務員試験の勉強を開始した時期が遅かったため、教養科目の数的処理など、公務員試験独特の内容の対策に苦勞しました。ただ一方で専門科目に関しては、学部からの学習の蓄積にかなり助けられました。この意味で、専門知識のある大学院生にとっては、試験区分によってはアドバンテージを発揮することができるように振り返ってみると思います。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

なぜ文科省職員を志望するのか、ということを自身の経験に基づいて「自分の言葉で」伝えることが重要ではないかと官庁訪問を振り返って思います。政策に関する知識が乏しくても、この核心部を強く意識して臨むことで、多少複雑な質問に直面しても落ち着いて自分の考えを伝えることができるのではないのでしょうか。また官庁訪問中は文科省に限らず、「この貴重な機会に沢山勉強させて貰おう！」という心持で臨みました。

官庁訪問先

文部科学省、厚生労働省

休日の過ごし方

気分転換に家族や友人と出かけた。

控え室の過ごし方

他の学生とおしゃべり、情報交換をした。

官庁訪問に持っていったもの

メモ帳、お菓子

23

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

学生時代に力を入れて取り組んだことは、研究です。修士論文では、小規模児童養護施設における児童の滞り場所選択に影響を与える空間的要因に関する研究を行いました。建築学の分野ではあまり研究がされていないテーマでしたが、施設の児童と友人であった経験から、自身の分野で彼らの助けになることがしたいと思い、果敢に挑戦しました。

2. 文部科学省を志望した理由

志望理由は、子供と建築に関わる仕事ができるからです。私は研究を行った児童養護施設で子供たちに関わることで、彼らの明るい未来に貢献できる仕事がしたいと考えようになりました。また、大学の建築学科で得られた知識を活かした仕事もしたいと考えていました。この二つの目的を達成できるのは文部科学省文教施設企画部であると考え、本省を志望しました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

決め手は2つあります。1つ目は、文科省夏期インターンシップに参加した際にお世話になった職員の皆様がとても親切で、情熱を持って仕事をされていたからです。私も彼らと一緒に仕事をしたいと思いました。2つ目は、様々な経験ができるからです。文科省には教育を司る局の他に、科学技術・学術を司る局やスポーツ庁、文化庁など様々な分野に関わることができます。文科省に入省して様々な経験をしたいと思いました。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

一番大変だったことは、採用や試験に関する情報収集です。私は理系である建築学の分野から、文科省の事務系採用を狙ったので、大学時代の先輩や友人から詳しい情報を得ることができず、苦労しました。インターンシップに参加して若手の職員さんから試験の勉強方法を聞いたり、業務説明会や政策シミュレーションに参加して他の受験生の方から官庁訪問の情報を収集したりしました。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

この冊子を読んでいる皆さんは恐らく、採用に関してリアルな体験談を知りたいと思い、冊子を手にとったのではないのでしょうか。文科省には採用の為に様々なイベントを用意しています。職員訪問や懇談会等、直接職員さんと会話ができるイベントで様々な職員さんの体験談を聞くのがオススメです。事前に職員の方と会話をしておくと、官庁訪問のときに緊張が和らぐと思います。是非積極的に様々なイベントに参加してみてください。

官庁訪問先

文部科学省、厚生労働省、国土交通省

官庁訪問にまつわる話

新橋で銀座線に乗り換えられず、文科省まで歩いた

休日の過ごし方

とにかく寝た。1日中寝た。

控室の過ごし方

様々な分野の子に各分野の必読書を聞いて回った

官庁訪問にかかった費用

10万弱（遠征組だったが友人宅に泊めてもらったので節約できた）

官庁訪問に持っていったもの

お弁当、お菓子、飲み物

2-2.

職 合 総
系 術 技

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

学部時代は副専攻の勉強と、塾講師のアルバイトです。院に入ってから、専門の研究です。

2. 文部科学省を志望した理由

日本が今後国際社会で生き残るには、科学と科学技術が不可欠であり、それを支える教育が必要であると考えました。文科省はこれに直接関わる役所であり、また、自分の専門や経験をもっとも生かせると思ったからです。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

官庁訪問において、上記のような思いが強まったこと。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

官庁訪問期間の予定のやりくり。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

(第一) 志望以外のことも官庁訪問に行ける程度に勉強しておく、それが志望する省庁での面接に役立つことがあると思います。また、具体的かつ正確な情報を得るように心がけて下さい。「志望理由」を、いくつかの角度から言えるようにしておく、良いと思います。特に、「ならなぜ〇〇省じゃないの？」や他の職ではダメなのか、という問いに説得力のある答が出来るようにしてみてください。

官庁訪問先

文部科学省、外務省

官庁訪問にまつわる話

直前に寄ったカフェにキャリーケースを忘れた。

休日の過ごし方

東京を見て回っていました。

控え室の過ごし方

他の志望者と話した。

官庁訪問にかかった費用

10万円強

官庁訪問に持っていったもの

メモ帳、筆記用具、内定者ノート

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

学園祭では、香辛料の持つ薬理作用に興味を抱き、それが多く使われているカレーについて研究発表を行いました。その際、他学部の教授や食品メーカーの研究職の方にコンタクトを取る等、積極性を培うことができました。また、カレーの勉強会を学内で開催することで自主性を身につけることもできました。

2. 文部科学省を志望した理由

研究室に配属されてから、大学には予算不足で研究が思うように進まない教授がいることを知りました。また、教授に話を伺うことで、研究に関わる人材や環境にも様々な問題が生じていることが分かりました。それらの問題を少しでも減らすために、先端技術の発展と社会基盤を支える公務員となり、研究を公職の立場から支援したいと考え、文部科学省を志望しました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

決め手となったのは、官庁訪問中に感じた様々な職員の方々の熱意です。面接を担当していただいた職員の方々は皆、明確な問題意識をもって働いておられ、その職務に対する姿勢に胸を打たれました。その熱意を生で感じたことが「こんな魅力的なところで働きたい!」という気持ちを強く後押しし、文部科学省で働くことにしました。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

最も大変だったのは官庁訪問でした。満員電車で風邪がうつったのか、第一クール後の土日に高熱を出してしまい、第二クールの初日は体調がすぐれないまま文部科学省に官庁訪問へと向かっていました。面接官の方々のご厚意で早退させてもらい、第三クールから本調子を出して面接に挑むことができましたが、体調管理の重要性を痛感しました。

志望者の方々は、官庁訪問中ではくれぐれも体調には気を付けるようにしてください。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

官庁訪問で最も大事なことは「成長を見せること」だと思います。各クールが終わればその合間には息抜きをするだけでなく、官庁訪問中に気づいたことや自分の中での問題意識の変化をきちんと整理して、次の面接時に少しでも成長した姿を面接官の方に見ていただくことが鍵になると思います。

なので、多くの成長が得られるように、官庁訪問中の待機時間は周りの志望者と積極的に話して色々な意見を取り入れて欲しいです。

官庁訪問先

文部科学省、特許庁

官庁訪問にまつわる話

朝の満員電車が洒落にならないほどの大混雑で、人に押されて体が一瞬持ち上がりました。

休日の過ごし方

風邪を引いた日は一日中寝込んでいました。治ってからの休日は観光地でタピオカミルクティーを飲みました。

控え室の過ごし方

同じテーブルの人たちと談笑していました。

官庁訪問にかかった費用

東京に住んでいる友人の家に泊めてもらったため、交通費と食費のみでした。総額はおよそ8万円です。

官庁訪問に持っていったもの

メモ帳、おやつ、充電器

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

大学院での研究活動。日々の研究では、闇雲に実験を繰り返すのではなく、ロジックを積み重ねることで、最小限の試行により仮説を実証することに注力しました。更に、得られた研究結果を学会で発表することにより、自身の研究をわかりやすく人に伝える工夫ができるようになりました。また参加した学会の一つで賞を受賞できた時は喜びもひとしおでした。

2. 文部科学省を志望した理由

①これまで学んできた知識のみならず、経験を活かして科学技術、基礎研究の振興支援に取り組みたいと思ったからです。

②科学技術以外にも、教育・文化・スポーツなど幅広いジャンルの業務に携わることができることに魅力を感じたためです。

③官庁訪問を通して様々な方と面接を繰り返す中で、官庁訪問前と比べ私の中の志望度が上がり、文科省で働きたいとより一層思うようになったためです。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

①他省庁と比較して、携われる分野が幅広く、(出世欲が高いわけではないが)技術系採用であっても昇進にガラスの天井がないことが、好奇心旺盛な性格である自分にマッチしていると感じたからです。

②3日目訪問にも関わらず、官庁訪問を通じて熱意を持ったお誘いをいただき、僭越ながら文科省で骨をうずめる覚悟で働かせてもらいたいと思うようになったためです。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

2週間分の宿泊費、交通費の捻出。官庁訪問までの数か月は、アルバイトを増やし、貯蓄していました。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

①志望理由をよく練ってください。これまでのあなた自身の人生を振り返る自己分析を行った上で、面接カードにスラスラ志望動機が書けない省庁はあまり合っていないかもしれません。

②聞かれたことに答えてください。質問されたことの意図が分からない場合には、確認を取るのも手です。

③選ばれる立場ですが、同時に選ぶ立場でもあることを忘れず、自分にぴったりの省庁を選択してください。

官庁訪問先

文部科学省、厚生労働省、特許庁

官庁訪問にまつわる話

第1クールも第2クールも最後ほとんど一人になってしまって少し寂しかった

休日の過ごし方

友だちと横浜の日産本社で自動運転の試乗体験したり、脱出ゲームのイベントに参加したりしました。

控室の過ごし方

予め次に呼ばれる目安の時間を伝えられている時は、その時間まで寝てました。

官庁訪問にかかった費用

15万～20万

官庁訪問に持っていったもの

ノート、ボールペン

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

大学受験は文系だったのですが物理や化学をやってみたいと思い立って学部の中で理系へ転向しました。初年次は板書のギリシャ文字すら読めず微分積分に苦しみ単位を落としまくりましたが、プライドを捨てて続けていくうちに講義や教科書の意味がわかるようになりました。そのときの気持ち良さが忘れられず、新しいことに挑戦するのが好きになりました。

2. 文部科学省を志望した理由

①優秀な研究者にお金の心配や事務手続きに時間を取られることなくに研究活動に専念して頂けるような環境をつくりたいから。

②いつの時代どの場所でも出自による格差を埋めるのは勉学であり頭の良さである。経済的な身の丈に左右されないように、子供たちに公平なチャンスを与えたいから。

③採用活動の中で出会った職員の方々が魅力的に思えたから。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

自分の成し遂げたいことを実現するには、巨万の富を得て孫●養育英財団を立ち上げるか、文科省に入るかのどちらかだと思ったのでより現実的な選択をしました。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

私は人の話を聞くのが好きなので官庁訪問の原課面接はとても楽しかったのですが、自分のことをメインに話す一般的な面接は超苦手でした。自分の良い（と思い込んでいる）ところを自ら話すのは奥ゆかしい日本人としては辛いものがあるというだけでなく、ある体験を元に自分はこういう良いところがあると他人に話した瞬間にその体験が薄っぺらいものへとになってしまう感覚がして嫌でした。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

官庁訪問では一日にたくさんの面接があります。最初の面接の感触が悪くてもたまたまその面接官との相性が悪かっただけで挽回できる可能性はたくさんあります。あまり引きずらないように休憩時間にコーヒーでも飲んで落ち着きましょう。でも、何回も面接受けたけど…という場合はその省庁との相性はよくないのかもしれませんが。自分と合わない職場に間違っに入らずに済んだ幸運を噛みしめながら次に行きましょう。

官庁訪問先

文部科学省、経済産業省、環境省

官庁訪問にまつわる話

一日中緊張しながら座っていたので尾てい骨が痛くなり整体に通った

休日の過ごし方

一日中寝るか友達と遊ぶかしていた

控え室の過ごし方

面接でどんな話をしたのか軽くまとめたりこういえば良かったかなというのを考えていた

官庁訪問にかかった費用

3万円くらい

官庁訪問に持っていったもの

メモ帳、ウィダーインゼリー、コーヒー

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

学部時代にアメフト部に所属していました。理系で体育会の部活ということでなかなか部活と勉強の両立が難しかったですが、友人に助けをもらいながらなんとか乗り越えることが出来ました。アメフト部においては特に初めてスタメンで出場させてもらった試合は印象深く残っています。周りの同期がどんどん試合に出場していく中、自分はなかなか試合に出られず苦しい思いをしてきましたが、三年生になって出場でき努力が報われました。

2. 文部科学省を志望した理由

日本の技術力の向上に貢献したいと思ったのがきっかけです。家族で科学技術館などによく行っていた影響により、幼少期から技術に関心があり、日本の技術に携わりたいと考えていました。研究者や技術者になるという選択肢も考えたのですが、博士課程に進む研究室のメンバーを見ていく上で自分は研究者には向いていないと感じました。そこで、研究者のサポートという観点から技術に貢献できる文部科学省を魅力に感じ志望しました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

働いている職員の方に魅力を感じたということと、志望理由と同じで日本の技術力の向上に貢献したいという気持ちが一致していたからです。私は初め、経済産業省を志望していたのですが、初日に落とされて二日目で文部科学省を訪問させていただきました。その際に色々な職員の方とお話をさせていただく上で自分に合っているなど感じたというのが一つ、後は志望理由に書いたような思いが一致していたからです。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

理系だと大手のメーカーなどの推薦が取れなくなってしまうことです。就活をはじめた時は企業のエンジニアや研究者を迷っていて、インターンにも参加していました。しかし、理系では推薦をとらないと志望企業を併願できなかつたりしたため、国家公務員に決める際は強い決心が必要でした。なので、後悔しないようにしっかり調べたほうがいいと思います。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

切り替えが大事です。私は一日目で経済産業省を落ちているので、精神的にとってもつらかったですが、なるべくそれを引きずらないように意識しました。その結果、二日目に文部科学省という素敵な出会いがあったので一回のミスぐらいで落ち込まず切り替えていくことが大事だと思います。

官庁訪問先

文部科学省、経済産業省、特許庁

官庁訪問にまつわる話

第一クールで志望動機を書き直せと言われたような気がして書き直していったら勘違いだった

控え室の過ごし方

聞いたことをすぐにメモした

休日の過ごし方

さいたま新都心でお買い物

官庁訪問にかかった費用

定期券内なので0

官庁訪問に持っていったもの

ミンティア、水、ノート

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

学業で最も力を入れて取り組んだのは研究です。研究を通して、正解がわからない課題に向き合う難しさを強く実感しました。

学業以外では、学部1年生のときから現在まで継続している家庭教師のアルバイトから学ぶことが多かった気がします。

2. 文部科学省を志望した理由

幼少期に海外で生活した経験から日本の社会の豊かさを実感し、これを支える仕事に就きたいという思いから国家公務員を志望しました。中でも文部科学省では、教育や科学技術を通して将来の日本を支える人材や技術を育てることができる点に魅力を感じ、志望しました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

最終的な決め手は、職員の方の雰囲気です。仕事の内容には以前から興味を持っていたものの、労働環境に関して不安があり、当初は他省庁を第1志望にしていました。不安が完全に解消されたわけではないですが、職場訪問や官庁訪問を通して、ここの職員の方々と一緒に頑張っている姿を見ていけそうだと思い、最終的に文部科学省への入省を決めました。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

一番大変だったのは官庁訪問です。周りに公務員志望者がおらず、具体的にどのような対策をしておけば良いのか全くわからなかったため、始まるまでは不安が大きかったです。特に政策に関しては勉強できていない部分が多かったため、知っているふりをせず、わからないことは素直に質問することを心がけていました。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

人柄を重視されている印象を受けたので、固くなりすぎず素を出せると良いと思います。個人的には、官庁訪問までに民間企業の方で面接の経験があったお陰で比較的にリラックスして臨めた気がするのですが、筆記試験との両立が難しいとは思いますが、公務員以外も視野に入れて就活を進めておくのが良いのではないかと思います。

官庁訪問先

文部科学省、特許庁

控え室の過ごし方

面接内容をメモして一息ついたらずぐに次の面接に呼ばれることが多かった気がします

官庁訪問にかかった費用

10万円

官庁訪問に持っていったもの

メモ帳

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

個別指導塾のアルバイト活動には、特に力を入れて取り組みました。たくさんの子供たちと勉強以外にも色々な話をし、成績だけでなくその子供たちのより良い将来のために何ができるかを考え行動していく日々でした。今思うと、こういった経験があったからこそ人材の育成や国民の未来に貢献できる文部科学省に惹かれたのかなと思います。

2. 文部科学省を志望した理由

学部生時代に医療現場での実習を体験したことで、科学技術の発展が豊かな生活や救える命を増やしていることを実感し、科学の発展に貢献できる業務に魅力を感じるようになりました。そのため、科学技術の発展や実用化に寄与し、多くの人の生活や健康に貢献できる文部科学省に強く惹かれました。また、幅広い分野への知的好奇心がある自分にとって、様々な領域に携われることにも魅力を感じ、志望に至りました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

官庁訪問の間に様々な職員の方と会話をする中で、国の未来のために熱意を持って業務に取り組む姿勢や面接にも関わらず他省庁と悩んでいることへの相談にも真摯に対応してくれる人柄の部分に強く惹かれたことが一番の決め手です。また、様々な領域の分野に携わることで幅広い知識を吸収し続けられることと、その学んだ知識を多くの人の未来に貢献できることにも魅力を感じました。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

大学の友人達が次々と納得のいく就職先を決めているなかで、上手くいくかどうか分からない公務員試験や官庁訪問のモチベーションを保つのが大変でした。特に二次試験が終了し合格を待っている時期は、友人達の民間就活内々定のピークの時期なことと、筆記試験の勉強が必要なくなることで内定に向けて努力できることが一気に減るので、焦りと不安だけが募り、勉強の追い込み時期よりきつかったです。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

官庁訪問は、個人の魅力を出し切ることが大切だと思いました。私は正直なところ、文部科学省の説明会は合同説明会一度しか参加しておらず、知識的に遅れをとっていました。しかし、職員の方との会話を重ねていくうちに付け焼き刃な知識でなく「この人と働きたい」と思ってもらえることが大切だと感じました。各々の個性と省庁のカラーがマッチすれば自ずと結果はついてくるので、気負い過ぎず官庁訪問を楽しむのがいいと思います。

官庁訪問先

文部科学省、特許庁

控え室の過ごし方

とある巡りあわせで仲良くなった人とひたすら雑談

休日の過ごし方

自然に目が覚めるまで寝て、起きたら簡単に自己分析の確認。

官庁訪問に持っていったもの

刺激が強いガムやタブレット

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

私が学生時代に最も力を注いだ事として、「大学での研究」を挙げます。私は常に「楽しむ」ということを意識して生活を送っています。学生生活には様々な楽しみが存在していますが、自分が「楽しい」と思う研究を自由に行うことが出来るのは学生時代のみであると考え、積極的に研究に取り組んでいます。また真摯に研究に向き合ってきた結果、「結果から原因を分析し、解決策を導く」という論理的な思考力が得られたと考えています。

2. 文部科学省を志望した理由

私が文科省を志望した理由として、科学や研究・学術に携わる文科省の業務を通じて、様々な分野の科学の発達と日本社会の発展に貢献したいと考えたということを挙げます。私は将来、ドラえもんの世界の様に科学が発達した日本社会や、人々が科学を「娯楽」の様に身近なものと認識する程に人々と科学との距離が近いものであるような社会をこの目で見たいと考えており、その様な社会の実現に携わりたいと考えて文科省を志望しました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

私が文科省で働くことを選んだ決め手は、「業務内容」と「職員の方々」の二つを挙げる事が出来ます。宇宙から深海まで幅広い科学分野の発展に、直接あるいは間接的に携わることが出来る文科省科学技術系の業務に強く心を惹かれました。また職員の方々の、大変であっても自分の好きなこと・やりたい業務に全力で取り組むという意識や、上司部下関係なく助け合い、思いやりを持って業務に取り組む姿勢に魅力を感じました。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

恐らく多くの人が挙げていると思いますが、私も「官庁訪問」が内定までの道程で最も大変だったと考えています。まず私は文科省まで海を越えなければ辿り着けない場所に住んでいたもので、日程や金銭面、体力など様々な面で厳しいと感じました。また官庁訪問本番も精神・体力の両面において激しく消耗したことを覚えており、互いに励まし合える様な友人・ライバルを作れたからこそ乗り越えられたと感じています。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

官庁訪問を実際に経験する中で私は、「自分の思考が素っ裸にされる」という感覚を覚えました。文科省の職員の方々との面接は和やかなものが多く、時には笑いもこぼれることもありましたが、長時間・多数回の面接を通じて職員の方々は、確実に学生自身の性向・考え方や嘘を見抜くことが出来ているようでしたので、私はなるべく素直に自身の好きなこと・成し遂げたいことを整理し、相手に齟齬無く伝えることを意識しました。

官庁訪問先

文部科学省、特許庁

官庁訪問にまつわる話

ホテルに連泊しすぎて、部屋に某ホテルの某女社長写真入りレトルトカレーが16箱並んだ。

休日の過ごし方

寝る、成○石井で豪遊する、都内の友達と遊ぶ、なぜか友達と静岡まで旅行に行く

控室の過ごし方

周りの人と談笑、資料の整理と確認、直前の面接で聞いたことの整理と調査・確認

官庁訪問にかかった費用

20～25万円

官庁訪問に持っていったもの

ノート、食べ物類、小説

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

私は、4年間個別塾でアルバイトをしていました。小学生から高校生まで幅広く授業を担当した中で、最も力を入れたことは相手に合わせたコミュニケーションを取ることでした。一人ひとり考え方が異なるため、話をよく聞き相手をしっかりと理解するよう努め、その人に最も伝わりやすい話し方をするのを心がけました。それにより生徒との信頼関係を築くことができ、生徒の学習意欲を高めることや成績向上に繋げることができました。

2. 文部科学省を志望した理由

全ての人たちが安心して笑顔で生活できる、明るい未来や豊かな社会を科学技術によって実現したいと考え、文部科学省を志望しました。そのために、科学技術の発展に欠かせない研究者への精力的な支援や科学技術の重要性や楽しさを感じられる環境を構築し充実させることが大切だと考えました。そこで、常に研究者と国民双方の意見に耳を傾け、橋渡し役となることで両者が恩恵を感じられる政策を実現したいと考えたからです。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

決め手は二つあります。一つ目は、インターンシップや職場訪問などを通じて、職場のアットホームな雰囲気やチーム一丸となって仕事に取り組んでいる環境に魅力を感じ、一緒に働いてみたいと思える魅力的な方に多く出会えたからです。二つ目は、仕事内容に関して科学技術のみならず教育・文化・スポーツといったこの国の未来を築いていく分野を、幅広く長期的にサポートしていくことが出来ることに魅力を感じたからです。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

研究活動と就職活動の両立に一番苦労しました。大学院では研究活動が本格的に進んでいたため、公務員試験の勉強や様々な場所で開催される説明会に参加する時間を設けるために、寝る間を惜しむこともありました。どちらも手抜きをすることはしたくなかったので、なんとか隙間時間を作ることで就職活動を進めることが出来ました。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

自分が公務員としてどんな仕事をしたいのか、どんな世の中を作りたいのかを具体的にイメージし、アウトプット出来るようにしておきましょう。そのための準備として省庁研究や興味を持ったことなどをまとめておくといいと思います。また官庁訪問では、コミュニケーション能力や熱意を伝えることも重要な要素です。なので、多くの年齢層の人と多種多様な話をする機会を増やしましょう。

官庁訪問先

文部科学省、環境省

官庁訪問にまつわる話

新橋から銀座線に乗らず文科省まで歩きました。

休日の過ごし方

大学が近かったため、研究室にいった。また、官庁訪問中の質問の答えや疑問点などを調べたりした。

控え室の過ごし方

控え室にいる人と情報交換の他に普段の研究や官庁訪問時の滞在についてなど色々な話をした。

官庁訪問にかかった費用

5千円くらい

官庁訪問に持っていったもの

メモ帳、名刺入れ

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

バスケットボール部での活動。チーム全体の課題と部員 1 人 1 人の長所を把握し、全員で情報を共有することを心がけた。また、まとまりのあるチームをつくるため、分け隔てなく接したり、イベントの企画をし交流の場を増やしたりすることも意識した。結果、以前よりも部員それぞれの強みを生かし、同じ目標に向かって全員で頑張るチームに変わったため、大会の優勝に貢献できたと感じている。

2. 文部科学省を志望した理由

学生たちが初等教育等の早い段階から「目的を持った学習」「自分の将来への責任」という意識を持ちながら勉学に励み、将来活躍するための力を育む環境をつくりたいと考えた。また、研究の発展には若い研究者の育成が大事だと思うが、現状の大学の研究室における指導や教授の業務内容に疑問を感じており、研究環境を改善していきたいと思ったため。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

教育や研究の環境を変えていきたいという思いを果たすためには、根本的なところからの変化が必要で、その変化を起こすために、教育等に関わる政策立案を行えるのが文部科学省だと思ったから。また、官庁訪問や説明会などを通し、職員の人柄が良く、1 人 1 人が自分の信念を持って働いているように感じたため。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

国家総合職試験の勉強。化学・生物・薬学（院卒）は試験の情報量が少なかったため、勉強法や参考書などを全て自分で決めるしかなかったこと、また模試などもないため自分が受験者の中でどの程度のランクにいるのかわからなかったことが怖かった。また、官庁訪問では、民間をほぼ受けておらず面接慣れしていなかったため、1 日に 5 回以上の面接を受けたり、遅くまで待機したりすることは、体力・精神的に大変だった。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

（私自身、面接は苦手なため参考になるかわかりませんが…）難しい言葉を使うことより、やりたいこと等を自分なりの言葉で伝えることが大事。上手く話せなくても、職員の方は言いたいことを理解しようとしてくれていたように感じた。また面接を終えるごとに、自分の考えをブラッシュアップすることも大切だと思う。説明会では冊子等からはわからない文科省の業務や環境を知ることができるので、参加しておくためになると思う。

官庁訪問先

文部科学省、厚生労働省

官庁訪問にまつわる話

最終日はトランプに救われました。

控え室の過ごし方

自分の考えを整理したり、近くに座っていた人と話したりしました。

休日の過ごし方

寝ました。

官庁訪問にかかった費用

交通費で 15000 円弱。

10

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

専門分野が学際的で、実用主義なこともあり、異分野の研究者や法曹などとの交流、意見交換の場に出席しました。多様なバックグラウンドの中で、それぞれの専門家の立場を理解し、現行のシステムがどうすれば向上するかについて多角的に考察する素地を養いました。

2. 文部科学省を志望した理由

学生と接する中で、教育や科学技術の面で共通の疑問を抱くようになりました。科学技術の進歩に伴い情報が容易に取得できるようになりましたが、同時に情報を活用する能力が乏しい学生を散見します。スマートフォンなどで閲覧できる情報は全てが正しいとも限りませんし、適切に利用できるかは個人の素養によります。高度な情報社会で生き抜くために、人材育成や科学技術の発展に携わることで国民の生活を豊かにしたいと考えました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

説明会や官庁訪問で私と同じように博士の学位を取得後、入省された方のお話を伺いました。そこで、学位を持っていることは行政官であっても無駄にならないということ、自身の経験がこれまで身近であった教育や科学技術の面において様々な形で活かせるというアドバイスを戴き、文部科学省で未来の諸問題の解決に携わりたいと考えました。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

就職活動を他にしていなかったこともあり、面接慣れしておらず、事前準備が不十分だったことを痛感しました。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

官庁訪問は面接を経るたびに成長の期待できる良い機会です。インターンシップや職場訪問といった事前準備はあるに越したことないですが、面接の中で常に問題意識を持ち、職員の方のお話を回顧することが重要に思えます。皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

官庁訪問先

文部科学省、警察庁（6月官庁訪問）

官庁訪問にまつわる話

6月期の官庁訪問だったので、1週間で終わりました。スケジュール的にも費用的にも助かりました。

休日の過ごし方

官庁訪問中、休日はありませんでした。

控室の過ごし方

情報共有や雑談

官庁訪問にかかった費用

5万円弱

官庁訪問に持っていったもの

新聞、眼鏡、炭酸飲料

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

大学院では研究ばかりです。内陸地震の発生メカニズムについて研究していて、たまに地震計の設置やメンテナンスのために山の中に入っていくたりしますが、基本的には一人研究室でパソコンとにらめっこしています。研究生活は実に孤独です。学部ではアイスホッケーをやっていましたが、ワンプレーごとにチーム全体で一喜一憂する感じ、一体感が楽しかったなと思う今日この頃。

2. 文部科学省を志望した理由

科学技術が好きなので、科学技術の様々な分野の発展に携わりたいと思い、志望しました。科学技術によって、自然災害や病からより多くの人の命が守られる。環境問題が解決する。人の生活がもっと豊かになる。研究者のサポートをすることで、そんな未来の実現に少しでも貢献したいと思っています。それに、教育やスポーツにもすごく関心があるので、文部科学省は私にぴったりだと思いました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

職員の雰囲気惹かれたことです。ほとんど技術系の職員としか会ってないので、技術系の職員の雰囲気になりますが、「熱いけど、暑苦しくはない（熱いと暑苦しいは微妙に違う）。理系だけど、オタクっぽくはない（そもそも理系にオタクが多いのかという議論は置いておく）」という印象を受けました。会う前のイメージでは、暑苦しいのかと勝手に想像していましたが、そんなこともないんだなと思ったのが決め手になりました。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

試験が一番大変でした。1次試験は斜め前の席の人がずっと貧乏ゆすりをしていて、気が散ってしまい全然できませんでした（試験官に言えばよかった。今思えば）。2次試験は適当に山を張って挑んだのですが、奇跡的にその山が当たりました。最終的にまぐれで合格したわけですが、最後まで冷や汗ものでストレスフルでした。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

私の場合は、突拍子もないことは聞かれませんでした。その分、突拍子くないことはしっかりと答えられないと内定をもらうのはむずかしいかもしれません。志望理由とか、入省して何がしたいとか、学生時代に頑張ったことなど、どんな就活の面接でも聞かれるようなことは、官庁訪問前にできるだけ深くまで考えて、まとめていった方がいいと思います。至極当然のことですね。お役に立てず、すみません。

官庁訪問先

文部科学省（6月官庁訪問）

官庁訪問にまつわる話

初めの面接に呼ばれて立ち上がった時に、内腿が肉離れしました。官庁訪問中ずっと痛かったです。

休日の過ごし方

柴又帝釈天に行って3回おみくじを引きましたが、全て凶でした。あきらめて、「ん」のお守りを買いました。

控え室の過ごし方

6月官庁訪問で訪問者が少なかったのも、控え室でゆっくりする暇もなく面接に呼ばれ続けました。

1. 学生時代に力を入れて取り組んだこと

細胞生物学の研究ができる研究室に行くために正課の勉強に励みました。研究室配属には成績が反映されるので、高い成績を維持する必要がありました。よって、試験前に友人と勉強会を開催し、苦手科目を教え合うことで弱点を克服したところ、全科目において高い評価をいただき、学科内で首席になることができたため、目標であった研究室への配属が決まりました。

2. 文部科学省を志望した理由

私は科学技術行政に関与することで将来の国益向上、国民生活水準向上に寄与貢献したいと考え、それを実現する場こそが文部科学省であると考えました。数十年先の未来を考慮し、今後の社会発展を教育や技術を通して実現していく、という未来志向性の強さに魅力を感じました。Society5.0における「最もイノベーションに適した国」の実現およびその後の社会発展を見据えて職務に従事したいと考え、志望しました。

3. 文部科学省で働くことにした決め手

文部科学省で働くことにした決め手は、科学技術分野を通して我が国のさらなる発展に寄与貢献できると考えたからです。各種説明会を通して、文部科学省では自身の“理系”というバックグラウンドを活かして我が国の科学技術を盛り上げるために様々な施策に取り組んでいることを知りました。民間企業よりもスケールや影響力が大きい文部科学省での業務はとてもやりがいがあると感じたため、ぜひ文部科学省で働きたい、と考えました。

4. 内定まで振り返って一番大変だったこと

国家総合職の試験に合格するまでが一番大変でした。文部科学省では自身の専門以外の科学技術行政にも関わらなければならない、ということを業務説明会で知り、今の自分に何ができるかを考えた結果、自身の試験区分を専門である「化学・生物・薬学」ではなく、あえて今まで自分が学ぶことを避けてきた「工学」の区分で受験することにしました。そのため、受験勉強には大変苦労しました。

5. 官庁訪問に向けてアドバイス

志望動機や自分がどんな人間なのかについてどれだけ深く掘り下げられているか、また、それをどれだけ的確に面接官に伝えることができるかが重要になってくると思います。文部科学省に関する知識は科技系の場合そこまで深く求められない印象だったので、やはり自身の人柄が如何にして文部科学省において活躍するのかをアピールしていくことが大事だと思います。

官庁訪問先

文部科学省、特許庁

官庁訪問にまつわる話

単身赴任している父の家に宿泊していたので、官庁訪問期間はずっと寝袋で生活していました…

控え室の過ごし方

各面接でどのような質問を受けたかを必死でメモしていました。

休日の過ごし方

一緒に官庁訪問に来ていた大学の友人と飲んでいました。

03.

内定者 アンケート

内定者が不安だったことを
それぞれのバックグラウンドに
合わせて聞いてみました。

Q1. 地方大学出身者

・文部科学省を意識し始めたのはなぜですか？

自分が離島の過疎地域出身だったこともあって、都市と地方の教育環境の格差に関心がありました。教育機会の格差を縮小するにはどのようなアプローチができるか考えた時に一手段として教育行政に興味を持ったことがきっかけでした。

もともと名古屋市役所を受ける予定だったけど、市役所の就活イベントに参加した時に、職員さんから国家も受けるのいいのではないかとオススメされたから。

教育の環境を整えたり、多くの人に数学の楽しさを伝えたいと思って教員を目指していたけど、子供だけじゃなくて周りの大人にもアプローチできる文科省の仕事に魅力を感じたからかな。本当にここで働きたい！って感じたのは官庁訪問だったけど。

説明会で博士号取得後入省された職員のお話を伺ったからです。

日々やりがいを持って取り組める職に就きたいとの思いから公務員予備校に通う中で、文科省の説明会に参加した。そこで教育・文化・スポーツ・科学技術と幅広い分野を経験できることに魅力を感じたのが、関心を持ったきっかけです。

民間就活を経て、じっくりくる業界がなかったというのが官を意識し始めたきっかけですね。それまで場当たり的に就活をしていましたが、民間を経ることで自分の人生を振り返る機会ができ、結果的に公教育に携わりたいという想いを持つに至りました。

大学3年生の夏ごろから徐々に各省庁の説明会に参加をする中で、文部科学省の政策やミッションが自分の理想とする社会の実現の為には必要不可欠であると思い、意識をし始めました！

私は、科学技術や教育、スポーツに、文化、芸術と興味の幅が広いので、その興味を満たしてくれる場所はどこかと考えると、文部科学省だろうということになりました。

当初は、研究者になる将来しか考えたことがありませんでしたが、数年前、他省庁も含めてですが、国家総合職という仕事に就く可能性にふと思い至りました。国家総合職は、一生の中で、国内外様々な分野・場所での仕事ができる可能性があり、ある意味で人とは違った人生を送れる職だと思います。そこに魅力を感じました。とりわけ文科省は、理科系の基礎研究に取り組んできたバックグラウンドと自分の興味とをもっとも生かしやすい省だと考えました。

3年生後期に研究室に配属されてから、大学には予算不足で研究が進まない教授がいることを知りました。そのような研究室を減らしていくために、研究を公職の立場から支援したいと考え、文部科学省を志望しました。

元々は教員になろうと考えていました。中高も楽しかったし、専門を唯一活かせる職だと思ったからです。しかし留学で様々な人に会い、特に当時問題となっていたシリア難民の困窮を目の当たりにし、そして日本でも地方の教育環境や障害をもつ子どもを知り、子どもの置かれた状況は多種多様であることを知りました。そこで、こうした全ての人により幸せに暮らすためにはどうしたらいいかを考えた時に、行政という選択肢を考えました。文科省を目指すようになったのは、インターンシップがきっかけです。

・地方大学出身で不利だと感じたことはありましたか？

官庁訪問とか説明会で東京に行った時に不利は感じてましたね。何よりお金がかかるのと説明会が少ないので情報も集まらなくて不安でした。周りに文科省志望者がいなかったことも都市の大学よりも不利だったのかなあ。

情報収集ができなかったのが辛かった。建築学科から文科省を受けた先輩や、一緒に受ける友達が全くいなかった為、東京で開催されるイベントに参加してた。

何もしないと情報が全く入ってこないこと。周りに同じ進路の人も情報を持っている人も少なくて、どんな職業なのか知るのも難しかった。官庁訪問でここで働きたい！って一目惚れするくらいには何も知らなかったかも。

省庁によっては不利に感じると思いますが、文部科学省では特に感じませんでした。6月期の官庁訪問は3,4日で終わったので出張の負担も小さかったです。

霞が関の雰囲気を感じられる機会が少ないことは、地方出身のデメリットだと思いますが、今はスカイプでの説明会もあり、また地方出身だからこそ得られる問題意識、考え方もあると思うので、地方出身であることを、むしろプラスに捉えていました。

特にありません。強いて言えば東京までの交通費と宿泊費ですかね。

確かに、関東との間に物理的な距離はありますが、地方でも内定者座談会や各省庁や人事院を通じて多くの説明会を開催してもらえるので、情報収集に関して苦労することは全くありませんでした！

できるだけ、現職の職員の方と話がしたかったのですが、地方への訪問頻度はそこまで多くないので、それは不利かなと思いました。

官庁訪問時にお金がかかります。それ以外は、内々定をもらうまでは特に感じたことはありませんでした。が、今思えば、東京では、本省主催の説明会やその他のイベント等の数が、関西に比べてはるかに多いので、参加しやすく、より具体的な情報が、より得やすいのだと思います。ただし、私は地方とはいっても京都でしたので、恵まれていました。他の「地方」だと、さらに「生で」情報を得る機会が減るのは事実でしょう。

何よりも官庁訪問でかかる費用が膨大であるという点です。幸いなことに、私の場合は東京に住む友人がいたので友人の家に泊めてもらっていましたが、周りの受験者はかなり苦労していたようでした…。

距離的制約から日常的に説明会や政策シミュレーションなどの参加が難しいことと、官庁訪問に際して多額の負担が必要なことです。説明会は言わずともわかると思いますが、官庁訪問は負担が大きかったです。

・文部科学省を受験することについて、どういう不安があり、どうやってそれを解消しましたか？

文科省で働いている人や志望している人が周りにいなかったのも、文科省を受けるイメージができなかったのも不安でした。イメージを膨らませるためにとりあえず説明会に行って不安を解消しようとはしてました！

文科省を受ける以前の2次試験が凄く不安だった。院卒工学の建築で受けたから、即日設計だったんだけど、参考書とかがあまりなくて大変だった。

私が一番不安だったのは試験で、正直大学の研究でそれどころじゃない！ってことが多かった。人間科学区分で独学だと教材も少ないから不安だったけど、1冊ずつ教材を完璧にしていって達成感で相殺してたね。

地方からということに不安は特にありませんでした。

中央省庁全般について言えることですが、説明会の参加回数や霞が関の雰囲気を感じることができる機会の差から、関東出身者よりも知識が少ないのではと感じることがあったため、2か月に1回東京を訪れる機会を作っていました。

文科省を考え始めるまで教育について全く無知だったので、いわゆる政策議論についていけるかどうか不安でした。ただ、無知ゆえに疑問は多く浮かんできたので、説明会などの機会に思ったことを質問することで、自分なりに意見が述べられるようになりました。

慣れない環境で長期間寝泊まりすることがあまり好きではなかったので、官庁訪問中の東京でホテルでの滞在が少し不安でした。途中少し体調を崩した期間もありましたが、とにかく、可能な限り栄養のバランスの良い食事をとることとあまりストレスを溜めないことに気を付けて約2週間過ごしていました。

官庁訪問の宿代が高くつくことが不安というか、不満だったのですが、東京の学生は普段から地方の学生より高い家賃を払っていることを考えると、まあええかと思えました。

地方故の不安ということはありませんでした。入省がかなわなかった場合、どこの研究機関でどのような仕事をするのか——という点でしょうか。これを「不安」と呼ぶならば、内々定をもらうまで、この「不安」は付きまといました。

最も不安だったことは自分に科学技術に関する専門知識が不足していたことでした。どれくらいのレベルの知識を前提とされているかが分からなかったのも、文部科学省が出版している白書・統計などを参考にしていました。

やはり東京の学生とのスタートの違いです。東京の学生はみな何回も説明会に参加していて、顔見知りの様子も多く見られ、1人ポツンとしているのが不安を増幅しました。解消方法としては、特にないので気にしないこと。

・官庁訪問に関する情報収集はどうやって行いましたか？

説明会とかホームページで情報は集めてましたけど、限界があったので職員訪問を2回しました！そのうち1回はSkypeで職員訪問をしたのですがこれはおすすめです！でも、首都圏の学生と比べると情報量はかなり少なかったと思います。

説明会で博士号取得後入省された職員のお話を伺ったからです。

各省主催の説明会、実際に霞が関で働く先輩方、通っている予備校等から情報を得ていました。

インターネットで検索しました。

内定者座談会等に積極的に参加し、対策方法などを聞いてました。また、文部科学省のホームページ上の内定者の声も頻繁に見ていました！

説明会と内定者座談会、若手職員との座談会などに参加して、色々聞きました。

大学等で開催される説明会に参加したり、インターネット等で情報収集したりです。関東での説明会やその他イベントに参加したことはありません。

過去に官庁訪問に行っていた先輩たちがその体験記を大学に残してくださっているので、それを参考にしながら官庁訪問のイメージトレーニングを行っていました。地方大学だとどうしても情報が少ないので、こういった縦の繋がりを最大限活用する必要があります。

説明会、HP ほか、大学生協の公務員講座に入っていたのでそこで情報を得ていました。しかしながら官庁訪問は特殊で、やってみてやっと全部理解できた感じです。

事前には特にしていませんが、短い官庁訪問期間中に受験者と情報共有をしました。

・地方大学出身だったからこそその強みは何だと思いますか？

出身も地方だったので小規模校も経験しているという原体験が問題関心に繋がっていたことは地方を経験したからこそその強みだと感じてました。

あとは遠方から東京の説明会に行ってることで熱意をアピールしているつもりでした。笑

地方大学だったから良かったことは特にないかな。強いていえば、職員さんと同郷だった時に話が盛り上がるかも。

単純に東京以外の事例をその地域で暮らすなかで認知できてるのは現状への問題意識も持ちやすいし、なにより働き初めてからの強みになると思う。あとは、地方出身ということで仲間意識が生まれて他の受験生と仲良くなりやすかったりする。

特に地方大学だからとかを意識したことはありません。

日本の首都である東京という地域を客観的に捉えて、その地域に根差した問題意識を持てることだと思います。

関東に比べると説明会なども小規模な事が多いですし、職員の方との距離はより身近で疑問に思ったことも質問しやすく、そこは良かったんじゃないかなと思います。

4年間の大学生活を通して学生時代に過ごした地方の強みや課題を肌で感じ、それらを抱えながら、東京で働くことができる点は強みかなと思います！

あんまりないと思いますが、官庁訪問の際に文科省の近くの宿をとれば、大抵の関東の学生より文科省までの移動時間がかからないことでしょうか。

これから東京に出たときに、地方との差を実感し、意識できるところでしょうか。

これは強みと言っていいのか悩みますが、地方出身だと官庁訪問のクール間に東京観光を楽しめますので、いろんな場所で新鮮な気分で遊びながら心身ともにリフレッシュできるというアドバンテージはあります（笑）

国を広い視点で見られるようになったことだと思います。私は東京生まれ東京育ちなので、一般的な日本社会＝東京だと思っていましたが、地方に進学することで、地方ならではの困難や課題を知り、日本国内の多様性を考慮の上で行政について考えられるようになりました。

・ 地方の説明会の良いところ

少人数で質問がしやすい。

比較的人数も少なく、同じ地域の学生が集まるため、横の繋がりができる。

人数が少ないから、たくさん質問できる。受験の勉強についても聞けた。近いから何回でもいける。

地方の困難や課題に即した題材をもとに、具体的な政策についても話を聞けることがある。

・ 地方の説明会の悪いところ

回数が少ない。

現職の職員がたくさんは来てくれません。

霞が関の雰囲気を感じられる機会が少ない。

限られた職員さんからしか話が聞けない。職場訪問みたいに、働いている姿を直接見ることはできない。

基本的には合同説明会しかないので、毎回一般的な同じ話ばかりになりがち。

・ 関東の説明会の良いところ

地方の説明会の裏返しになりますが、霞が関の雰囲気を感じられるところ。

実際に庁舎に入ることができるので、霞が関で働くイメージを具体的に持つことができます。モチベーションがとてま上がります!!

現職の職員が複数人来てくれました。

わざわざ行くから何かを得て帰ろうという気持ちになれる。

他の受験生と交流できる。聞きたい内容に詳しい職員さんにすぐ会わせてもらえる。

様々なテーマで複数回の日程があるので、自分の興味にあったお話を聞ける機会があった。

教育以外にフォーカスした説明会など、バリエーション多く様々な説明会が開催されている。また政策シミュレーションなども開催。同じ話ではなく、政策について深められる。

・ 関東の説明会の悪いところ

こちらも地方の説明会の裏返しになりますが、人数が多いため、直接職員の方や志望者と密に話せる機会が少ない。

交通費が馬鹿にならない。

遠い。交通費がかかる。時間がかかる。

内容ではないですが、お金がかかることです。

・ おすすめの説明会等がありますか？

インターンはオススメ。インターンの時に会った職員さんに、官庁訪問で会えたときは、楽しくおしゃべりできて緊張もほぐれて良かった。

政策シミュレーションや職場訪問は特にですが、職員の方や受験生と意見を交わせる機会なので、説明会は全ておすすめです！

現職の職員との座談会。

圧倒的に政策シミュレーションです。

全部おすすめですが、特にネット説明会と政策シミュレーションがおすすめです。ネット説明会は、地方受験生でも気軽に参加しできる点が良かったです。政策シミュレーションでは、他の受験者と議論をすることで、文部科学行政に関する理解が深まると同時に、自分の問題意識を明確にできると思います。

おすすめはインターンシップです。少し説明会とは異なりますが、働いているところに実際に入れるということは、職業選択の際に実際の環境を知った上で検討できる点で、自分と職とのミスマッチングを防ぐのに有効だと思います。また、官庁訪問に際しても、状況を知った上でなお私は頑張れる！という決意を説得力を持って示すことができるので、アドバンテージになると思います。

・ 地方大学出身の受験生に応援のメッセージをお願いします！

私自身、地元で就職するかどうかはとても迷いました。地方からの受験は経済的にも精神的にも負担になるかもしれません。ただ、チャレンジしてみると同じ志を持つ多くの人と関わる機会があり、自分自身が成長できるということを感じました。少しでも迷っている人はチャレンジしてみるべきだと思います！

地方大学出身だからこそ文科省に入って役立つ知見が得られることも多いと思います。情報にはとらわれすぎず、自分がどうありたいかを一番考えてこれを読む皆さんがたどり着く先が文科省だととても嬉しいです！一緒に働けることを楽しみにしています！

地方出身であることは、むしろ自分の付加価値だと思います。出身地に誇りを持って、その地域の代表だと思って、問題意識を積極的にぶつけてみてください！

実力勝負ですし、地方出身だからといって不利になることはありません。ただ金銭面はどうしても負担が大きいので、前々から計画的に貯めておくなどすることが必要不可欠だと思います。オンライン説明会などもぜひ活用してみてください。

関東よりも周りに受験者が少なく、不安になることもあるかもしれませんが、同じ地方の国総志望の同志と積極的にコミュニケーションを取りながら、一致団結して頑張ってください！応援しています！

地方大学の学生は、官庁訪問の宿代なども気になるかもしれませんが、官庁訪問で人生が変わるかもしれないので、そんなに気にしないでください。

地方だと、詳しい情報を得る機会が首都圏に比べると少ない、首都圏に行くのにお金がかかる、というデメリットがあるのは事実です。しかし、「ここ数年」というわけではなく、昔から毎年、首都圏以外の大学出身者も採用されています。また、当然、国家総合職に限らず、首都圏に就職する地方出身者は多数いるわけですから、必要以上に不利だと思わないことも大事でしょう。持てる手段を活かし、尽くして、試験及び官庁訪問に挑んでいただければと思います。

地方学生にとって、時間的・精神的・金銭的に、どうしても本省はハードルが高いものになると思います。それでも諦めず、ぜひチャレンジしてください！文科省は様々な地域の人を待っています。

Q2. 海外経験者

・海外に行った理由や、そこでどのような経験をしたか教えてください。

海外のね、教育現場を見てみたかったんですよ。日本がこれから外国人を受け入れていくことになると思ったので、できるだけ多文化の国が良くてスウェーデンにしました。大学で授業を受けながら、現地の日本人補習校でボランティアに行っていました。

海外に行った理由は、ヨーロッパの建築学校に行ってみたかったのと、海外で生活してみたかったから。留学中は、建築学校で授業を受けたり、語学学校でフランス語の勉強をしたり、建築設計事務所でインターンしたり、充実した1年間だった。

元々英語が好きで、高校生の頃から漠然と「留学してみたい」と思っていたんですが、その中でも英国を選んだのは、政治体制や国民性の観点で日本にも類似する点があり面白いと感じていたからです。政治理論や国際政治等の分野を中心に講義、レポート作成に取り組みました。

海外に行ったのは、将来国際機関で働きたいと思ったからです。スピーキングとリスニングにあまり自信なかったので一年休学して海外に行こうと思いました。カナダではレストランで働き、とにかくお客さんに話しかけるようにしました。(笑)

現地で専門研究に関する知識を深め、そして様々な場所に実際に赴き、人々と出会いたいと思って留学しました。私は西洋史が専門でしたが、日本ではあくまで文献上しか学ぶことができません。また、以前から短期留学を何回か経験していて、一度長期で行きたいと考えていました。西洋史の授業はドイツ語開催のみだったので、現地では大学と語学学校に1年通いながら、たくさん旅行にいきました。ヨーロッパは古くからの建物が残っていて、実際に歴史的事件の舞台に赴きながら、文化風土を肌で感じながら勉強できました。気付いたら約20カ国を踏破していました！

・なぜ文部科学省を目指そうと思ったのですか？

両親が中国系なので、幼少から学校現場で「あれ」って思うことがあって。「みんなが日本人で当たり前だね」っていう雰囲気ではなくて、「いろいろな背景を持った人がいるよね」という懐の広い教育が必要だと思ったんです。だからこそ文科省でした。

文科省からユネスコやOECDに出向できることを知ったから。フランスのパリでまた働きたいと思っている。

「全ての人が自信を持って生き活きと生きられる社会」を実現したいと考えていましたが、文部科学省は4つの所管分野の中心に「人の豊かさ」を置いており価値観が合ったこと、また職員の方と話す中でも自身の問題意識や熱意に共感いただき、楽しく議論できたことから、志望するようになりました。

元々は国際協力に興味があり、教育分野から支援する仕事に就きたいと思ってました。その後大学で、日本でも教育格差があり、十分な教育を受けられていない子どもがいることを学んだのが目指した理由ですね。JICA等と連携して途上国に教育輸出する業務があったのも魅力的でした。

元々は教員になろうと考えていました。中高も楽しかったし、専門を唯一活かせる職だと思ったからです。しかし留学で様々な人に出会い、特に当時問題となっていたシリア難民の困窮を目の当たりにし、そして日本でも地方の教育環境や障害をもつ子どもを知り、子どもの置かれた状況は多種多様であることを知りました。そこで、こうした全ての人がより幸せに暮らすためにはどうしたらいいかを考えた時に、行政という選択肢を考えました。

・海外経験を経ながら就活することに関して、どういう不安があり、どうやってそれを解消しましたか？

恥ずかしながら、留学中に公務員試験の勉強ができる気がしなかったんです。だから、「前年度から試験を受けておいて、受かってから留学に行こう」と（笑）。ただ、実際には留学のための準備と試験勉強の板挟みで大変でした。

大学院2年生の1年間、留学をしていたから、ちょうど就活時期とかぶってて、かなり焦った。フランスでは、パリで日本の就活支援企業の就活セミナーとかが開かれてて、何回か参加して情報を集めてた。でも、結局就活は1年遅らせたけど、そういう人結構いるから、悩んでいる人は思い切って遅らせてもいいと思う。そうすると留学に集中できて、やりたいことたくさんできると思う。

自分で立ち上げたサークル活動も疎かにしたくない、また留学も諦めたくないという中、公務員試験のための纏まった勉強時間が、留学から帰国後の4か月程しかないことに焦りはありました。民間就活と併せて確り予定を組むこと、人とも積極的に話し自分の目標・意思を何度も見直すことで、士気を保ちました。

特に不安は感じませんでした。不利になるとすれば、留学時期が試験や官庁訪問と重なることかと思いますが、私は学部3年時に1年間行き、その後院進したのでその点は感じることはありませんでした。

・海外経験があったからこそその文科省受験における強みは何だと思いますか？

改めて日本の良さ・強みに気付けたことですかね～。他の国が先進事例として挙げられる時にも、実際にはどんな困難があるのかが分かる。過剰な海外への憧れが消えて冷静に比較できるようになった気がします。

官庁訪問の際に、グローバル化に関する質問をされたときに、留学経験も踏まえた回答ができた。

短期間だったこともあり、授業を受けて寮生活を楽しむだけでもあっという間で、特段の強みになったという感覚はありませんが、授業スタイルや学生の姿勢は日本とかなり異なるので刺激は受けますし、日本における高等教育や国際教育の分野で政策立案のヒントにできる部分も多いかもしれません。

官庁訪問ではなぜ留学じゃなくてワーキングホリデーなのかよく質問されましたね。僕は浪人して私大に通ったこともあり、実家にこれ以上負担をかけさせたくないという思いがありました。なので、費用負担を抑えられるワーキングホリデーを選んだのですが、逆境の中でも前向きに目標に向かうという自分の強みを含めて海外経験を話せたことがプラスに働いたと思います。

自分の思考範囲が広がり、国という大きな視点で業務を考えられるようになったことです。私は東京生まれ東京育ちですが、大学進学、留学を経て地方の状況や海外の情勢を身をもって知り、様々な人と出会って自分の世界が広がりました。一つの同じ問題に直面したときでも、都心部と地方、海外にいる人、障害の有無、宗教の違いによって感じ方がかなり異なります。国家公務員として働く上でこの感覚を忘れないことが重要だと思います。

また、官庁訪問に関して、民間就活も行った身としては、民間に比べて海外留学や院進などストレートに卒業する以外の活動をかなりプラスに評価してくれていると思います！

・海外在住中に官庁訪問に関する情報収集はどうやって行いましたか？

文科省のウェブサイト定期的にアクセスしていました。採用に関するページだけでなく、新しい政策の情報も確認してました。あとは、一時帰国して、職員訪問をさせてもらいましたね。現職の方が今どんなことを考えているのかということをつっぷり聞かせてもらいました。

ネットで過去受験者の方のブログとかを読んで、勉強方法とかを参考にさせてもらっていた。

留学中は特段の情報収集は行っていませんでした。ですが、英国在住の大学 OBOG が食事会を開いて下さり、就活全般へのアドバイスはいただきました。

海外にいた頃は志望していなかったもので、全く行っていませんでした。

・海外在住中に試験勉強はどのように行っていましたか？

海外に行く前に試験を終わらせました。1年長く大学に通うことになりましたが、うまくいけばスムーズに留学と官庁訪問ができます。おすすめの勉強法は、とにかく問題集を解きまくることです。わからなかったらすぐに解答解説を見て、ひたすら解くということを繰り返しました。このやり方で、慣れない法律の勉強もなんとかこなせました。

週末は何時間が試験勉強するって決めて勉強してた。とりあえず数的処理と専門分野だけ留学中から勉強してて、そのほかは帰国後から本腰入れて勉強した。なぜかと言うと、留学先に参考書を何冊も持っていけなかったから。重いので…

留学先にも関連書籍は持参していきましたが、実際のところあまり開けませんでした（笑）
短期間なので、中途半端に勉強するよりは、留学先の勉強と試験勉強はそれぞれ集中して行った方が良く考えましたが、大変なのは最初の3か月とも聞くので、1年以上長期で滞在される方は2学期以降は計画的に進められるかもしれません。

・海外経験へ出発前にやっておいてよかった文科省受験準備は何かありましたか？

説明会などに参加しておいて、質問しやすい職員さんを見つけておくことですね。メールアドレスをいただけると思うので、海外にいる間も質問をすることができます。不安なことがあったとしても相談に乗ってくれると思います。

数的処理と専門分野だけは難しいから、早めに勉強しておくのがいいと聞いていた為、それに関する参考書だけ買って持って行った。

説明会への参加や職員訪問は留学前は殆ど行っていませんでしたが、試験勉強はこつこつ始めていて良かったと思います（出発前に必要範囲の法律の学習は一通り終えている状態）。民間就活も並行する予定だったので留学直前までインターンに参加していましたが、この経験を通じて就活全般への意識が高まり良かったです。

・海外経験のある受験生に応援のメッセージをお願いします！

海外経験があるからといって大きく有利になるわけではありませんが、不利になることはありません。自分が海外で学んだおかげで、日本のことを相対化して見るができると思うので、そういった視点を活かして頑張ってください。職員さんはあなたの思いを必ず受け止めてくれるはずです。

就活時期と留学期間が被ってしまった方、本当に不安だと思うけど、着実に準備をしていけば大丈夫なので、悲観的にならず、ぜひ文科省入省を目指してください！

海外経験はもはや多くの学生にとって「当たり前」になりつつありますが、同じ場所に滞在しても感じること・考えることは人それぞれです。ぜひ、ご自身の経験での気づきを大切に、活躍の場所を選択していただきたいと思います。頑張ってください！

笑顔で前向きに頑張ってください！

国家公務員で働くことには、様々な経験が役立ちます。不安に感じることもあるかもしれませんが、ぜひ海外、ボランティア、勉強、バイトなどいろんなことに一生懸命打ち込んで、自らの世界を広げてみてください。その努力や経験は、必ず高く評価されると思います。

Q3. 職務経験者

・現職(前職)の業務内容を教えてください。

商社のバックオフィス職員として、ロシア・CIS地域のビジネス側面支援（大使館その他外部機関との関係構築・情報収集等）、各国拠点の店舗管理（事業展開状況を踏まえた戦略形成等）、経営トップの活動サポート（出張・会合のアレンジ等）といった業務を行っていました。

私立高等学校・海外日本人学校小学部の英語科教員として、担当科目のカリキュラム作成、定期テストや入試問題作成、教材選定、教具作り、授業実施、外国人英語指導助手（ALT）の採用・管理・支援、外国語科に関わる校内職員研修の企画・運営等へ主に携わりました。あ、高校1・2年生の担任の先生もしていました！

・なぜ文部科学省の総合職に転職しようと思いましたか？

学生時代から教育に関心があり、文部科学省に官庁訪問もしていましたが、民間企業を経験してみたい思いが強く、ファーストキャリアは総合商社を選びました。1年経った頃から再び教育分野への興味の強さを自覚し、また民間企業で勤めた自信もつき、転職を決意しました。

大学院での学修を通して出会った方々に、私の出身や職歴、今までの経験から得た見方・考え方を、文部科学省の総合職として活かせるのだ、と気づかせていただいたことがきっかけでしたね。

・仕事と文科省転職活動をどのように両立させましたか？

試験は学生時代に合格していたためさほど転職活動との両立に苦労はせず、官庁訪問準備として過去いただいた資料や就活時代のメモを見返し、現在の自分と照らし合わせて志望動機等を固めていきました。また、休日は説明会に参加したり職員訪問をさせていただくことで士気を高めていきました。

試験期間中・官庁訪問直前期に海外で半年インターンをしていました。Skypeを活用して職場説明会や職員訪問へ参加し、志望動機や業務内容理解を深められるよう意識していましたね。インターン先の昼休憩中よくSkype職員訪問をしていましたが、話が盛り上がってしまい、昼休憩を大幅に過ぎてしまうこともしばしばでした…試験勉強は、主に平日夜退勤後・週末を使って行いました。

・転職活動に関して、どういう不安がありましたか？

1年強とはいえ、やはり社会人経験があるということで、学生より厳しく選抜されるのではないかと不安がありました。実際に2年前の自分より成長できているか、心配にもなりました。

性別と年齢、ですかね。「女性」で「30台直前」の候補者は、結婚妊娠出産等大きなライフイベントが近くあり得るし、積極的に採用されないこともあるだろうと思ったので。

・その不安は解決されたかどうか、また理由を教えてください。

学生時代にお会いした職員の方の多くが覚えていて下さり、2年前に比べて成長したと言ってくれたことは自信に繋がりましたし、話していて自分の文部科学省や教育への想いが以前より強くなっていることを実感したので、あとはそれをぶつけるのみと吹っ切れました。

業務説明会にいらした職員さんに、不安を思い切って打ち明けてみたんです。その方が、性別や年齢の可否影響を明確に否定されたこと、また、「個人のライフイベントを組織とし支えていく重要性」についてのお考えを、後日メールでフォローアップしてくださったことは、安心して受験に専念するひとつのきっかけになりましたね。

・職務経験があったからこそその文科省総合職受験における強みは何だと思いますか？

業種が全く異なるとはいえ、社会人の基本動作や組織での仕事のやり方がイメージしやすいという意味では、職員の方と話がしやすくなります。また、自身の職務経験を踏まえての意見だと、学生とは異なる視点が出せるのも面白いところだと思います。

職務経験、特にフルタイム教師経験を踏まえ文科省を官庁訪問することで、「レアキャラ」受験者になれたのは大きかったかもです。文科省の所管分野の話をして、「それで、なんでうちに？」って絶対興味持ってもらいながら、志望動機の語りに入れたのは、助かりましたね。

・職歴のある受験生に応援のメッセージをお願いします！

ユニークな経歴と驚かれることもあります。私自身は一貫して自分の感じることを尊重して選択を重ね、「今」を大事に生きているつもりです。回り道は決して無駄なものではなく、他の人にはない貴重な財産となるので、皆さんもそのかけがえのない経験から考えたことをぜひ文科省にぶつけてみて下さい！

教職を辞め院進学した際、2年後文科省総合職に転職するだなんて思いもしませんでした。人生は不思議なご縁の積み重ねで、どんどん面白くなるものと思うこの頃です。このページをご覧の、職歴あり・文科省受験にご興味がある方、これも何かのご縁です！あなただからこそ持てる文部科学行政への見方・考え方を活かして、ぜひ一緒にお仕事してみませんか。

Q4. 博士号取得者

・大学院(特に博士課程)での研究分野と研究テーマを教えてください。

研究分野は地震学です。内陸部で起きる大地震（阪神淡路大震災とか熊本地震とか）の発生メカニズムを調べています。

生体膜や生体分子の構造解析。特に、生きた細胞表層で生じる「エンドサイトーシス」という現象の進行過程のメカニズムの解明を目標としています。さまざまな条件下の細胞のエンドサイトーシスを、液中高速原子間力顕微鏡法という、細胞の表面を立体的に画像・動画化する方法で、実際に“目で見る”ことにより、「形（構造と動き）」と「意味（機能）」との関りを探っています。基礎研究そのものですが、創薬等さまざまな応用の可能性があると思います。

DNA鑑定における裁判での証拠の数的評価について。

・研究科や研究室では、博士課程生としてどのような仕事や役割を持っていましたか？

ゼミの世話人といって、ゼミの司会進行や日程調整などを行う役をしていました。

特別な役割はありませんでしたが、研究室員の研究がいくつかの分野に分かれており、私は原子間力顕微鏡（AFM）を使っていましたので、後輩や、場合によっては先輩に、使い方を教えたり、共同研究者からの依頼に応じて実験することは多かったと思います。また、毎年春、スーパーサイエンスハイスクール事業の指定校の高校生が研究室に滞在するのですが、研究室のボスや後輩と協力して、学部生以来この指導にあたってきました。なお、掃除大臣でもありました。

教育、研究、実務を担っていました。教育面では研究室に所属している後輩学生だけでなく、学部学生に実験や座学の指導をしていました。また、同分野の全国の職員の前で教育講演を行いました。実務の面では具体的に申し上げられませんが、法医学分野の関わる実務に多く携わりました。

・博士課程を経て、なぜ文部科学省を目指そうと思ったのですか？

研究がそれなりに好きで博士課程に入りましたが、博士課程で真面目に研究してみて、研究を一生の生業にした
いほど好きなわけではないなと思いました。でも、科学技術は好きだし、科学技術に関わる仕事はしたかったので、
文部科学省を目指しました。

当初は、研究者になる将来しか考えたことがありませんでしたが、数年前、他省庁も含めてですが、国家総合職
という仕事に就く可能性にふと思い至りました。国家総合職は、一生の中で、国内外様々な分野・場所での仕事が
できる可能性があり、その点で人とは違った人生を送れる職だと思います。そこに魅力を感じました。とりわけ文
科省は、理科系の基礎研究に取り組んできたバックグラウンドと自分の興味とをもっとも生かしやすい省だと考え
ました。

説明会で博士号取得後、入省された職員のお話を伺ったからです。

・就活に関して、どういう不安があり、どうやってそれを解消しましたか？

就活では文科省しか受けていませんが、学部卒の学生より高齢であることが受け入れられるかが少し心配でした。
しかし、官庁訪問では、他にも博士課程の学生がいましたし、面接でも博士課程であることを好意的に見てくれて
いる感じがしたので、不安は無くなりました。

入省がかなわなかった場合、どこの研究機関でどのような仕事をするのか——という点でしょうか。これを「不安」
と呼ぶならば、内々定をもらうまで、この「不安」は付きまといました。

博士取得後のポストが少ないことや、苦しい境遇にあることは把握していましたが、不安に感じることはありません
でしたし、むしろ強みだと思い受験しました。

・博士課程の経験があったからこそその強みは何だと思いますか？

研究のことを多少は知っていることが強みになったと思います。私自身は博士課程で研究とはどんなものかとい
うことや研究現場の問題点なども少し分かってきた感じがするので、それらを語れることは官庁訪問で強みになり
ました。

やはり、“研究の現場”の一例を、身をもって知っているということだと思っています。“現場”といっても、自
然科学の場合、「研究室で実験している」というイメージを持たれることが多いと思いますが、研究テーマを選び、
方法を考え、実験し、結果を解析し、考察し・・・という繰り返しや、あるいは、研究費の獲得や、研究環境の整
備といったことの大切さ——切実さ——を学びました。あるいは、そこで半必然的に身につけた、ある種の「タフさ」
は、仕事に生かせるかもしれません…。

実際の大学や研究機関における博士号取得者のその後の境遇を知れたこと、責任が問われるような業務を任され
ていたため、普通経験できないことにかかわらせてもらったこと、学際的な分野であったことから様々な研究者と
交流が持てたことなどです。

・ 官庁訪問に関する情報収集はどうやって行いましたか？

説明会と内定者座談会、若手職員との座談会などに参加して、色々聞きました。

『内定者の声』は役立ちました。やはり、受験者・内定者による情報は具体的で参考になりました。また、他省庁でも『内定者の声』に類するものが出ていますし、また、内定者・受験者へのアンケート等を、ウェブサイトやfacebookで探して読みました。官庁訪問以外でも有効だと思います。キャリアセンターをほぼ全く利用しなかったのですが、内々定後に行ってみて、利用すればよかったと思いました。

・ 試験勉強はどのように行っていましたか？

試験勉強は1か月くらいで一気にやりました。

あまり時間が取れませんでした。過去問を解き、解ける問題を増やす、そして、関連事項を調べる、という非常にシンプルな方法でした。過去問を基本にするのは、特に1次試験の教養科目では有効だと思います。

・ 博士課程経験のある受験生に応援のメッセージをお願いします！

文部科学省には博士課程経験のある職員がそれなりにいます。業務内容的にも、博士課程経験者が求められていると思いますし、好意的に見てくれます。博士課程経験者には、文部科学省を強くお勧めします。

博士課程等での研究経験をもつ人自身が、その知見や経験を、専門外にも生かせる可能性に気づき、視野を広げることが、日本における博士後期課程、ひいては研究・研究者のあり方を、より良くすることにつながると考えています。国家総合職を目指すのはその一つの形です。すこし長い道のりですが、自信をもって頑張ってください！

Q5. 過年度受験者

・文部科学省志望の理由を教えてください。

これまで小中高、大学、大学院と携わってきた教育や科学技術といった分野において自分なりに課題や展望がありました。実際の現場に立つのではなく、大卒となる制度面を良くすることに関心があったからです。

科学技術が好きなので、科学技術の様々な分野の発展に携わりたいと思い、志望しました。それに、教育やスポーツにもすごく関心があるので、文部科学省は私にぴったりだと思いました。

・過年度受験の理由は何ですか？

当初志望していた部署の空き待ちと、博士号取得を見越して2年前に受験しました。

私は今大学院の博士課程3年（博士課程の最終年）です。博士課程1年の時に国家公務員を志望して、博士課程2年で受験しました。受験機会を増やすためです。博士課程2年で落ちたら3年でも受けようと思ってました。

・受験年度の官庁訪問を行わなかった理由は何ですか？

博士課程を修了するつもりだったからです。基本的には、博士課程には3年いないと修了できないので。

・過年度受験の経験があったからこそその強みは何だと思いますか？

経験と呼べるものは特にありません。ただ、6月期の官庁訪問は1日にかなりの数の面接をこなすので、気持ちの切り替えや反省するという面で成長はできたかと思います。

官庁訪問する年度に受験すると、合格発表から官庁訪問まで時間が無くてバタバタすると思います。私の場合は、合格してから官庁訪問まで約1年あったので、余裕を持って官庁訪問に臨めたことが強みになったかもしれません。

Q5

過年度

Join us at MEXT!!

Good luck on everything!

内定者の声 製作グループ

※本冊子の内容を無断で複製したりネット上に公開したりしないでください。

※本冊子を転売することは禁止します。

※本冊子の内容は、内定者独自の調査・考察に基づいており、省の見解とは異なる場合があります。

〒100-8959 東京都千代田区霞が関三丁目2番2号

URL: <http://www.mext.go.jp/>

